昭和五十・五十一年度

文化財愛護モデル地区活動実践事例集

群馬県教育委員会

序

文化財愛護モデル地区が県内に5か所設置され、文化財愛護地区活動を強力に推進することになったのが昭和５０年度である。

指定の条件としては、県内５教育事務所の管轄地区ごとに原側として１地区とし、指定期間は２年間である。更にその市町村には指定文化財が多数所在するほか、地域住民が文化財愛護について熱意をもっていることも条件とされた。

このような条件を満される市町村として各教育事務所から推薦され、指定されたところは、館林市、吾妻町、水上町、群馬町、榛東村であった。

これらの市町村はその趣旨をよく理解して５０年、５１年の２年間にわたり多彩な活動を展開し、多大の効果をあげた。これは本文の実践報告を見ていただければ容易に理解されるところである。

ねがわくは、指定が終ってからもこれらの活動が継続発展していくことを望むものである。

最後に、指定地区の教育長はじめ担当者に心から謝意を表する次第である。

昭和５２年３月

群馬県教育委員会教育長　山　川　武　正

目　　次

「文化財愛護モデル地区」活動実践報告

館　林　市 …… 1

吾　妻　町 …… 28

群　馬　町 …… 61

水　上　町 …… 66

榛　東　村 …… 72

写　真 …… 91

昭和50年度「文化財愛護モデル地区」活動実践報告

館林市

1.

事業名	事業内容	事業成果
こども文化財教室	市内小5以上の児童、生徒を対象に年間6回、日曜日を利用し、郷土の自然、歴史、文化、文化財、建物等を中心に講話と見学を行う。	市内小中学生50名の出席のもとに、専門担当講師の指導により、熱心に受講し、講師もおどろくほど専門的に研究する態度であった。

2.

事業名	事業内容	事業成果
市内文化財散歩	市民に対する文化財愛護思想普及、啓蒙のため毎月1回、23名を公募し説明者をつけ実施した。	平素とかく無関心になりがちであったが、文化財散歩を通じ改めて郷土をみなおし、たいせつにする気持ちがつよまった。

3.

事業名	事業内容	事業成果
文化財愛護活動	市指定文化財を有する地区婦人30名が、毎月1回美化活動を行うとともに、文化財学習をあわせ行い関心を高める事業	美化活動を通し、文化財保護及び愛郷心が高まった。

4.

事業名	事業内容	事業成果
文化財愛護思想普及作文、標語募集	市内小中学生を対象に公募、趣旨徹底を図るとともに文化財愛護心を昂揚する。	県優秀作品入選にみられるとおり小中学生の文化財に対する関心はつよく純粋であるので今後も継続したい。

5.

事業名	事業内容	事業成果
文化財指導者研修会	市内小中学校、社会科担当教員を対象に年2回、市内文化財を中心に研修する。	郷土史、及び文化財について研修を深め指導者としての資質を高めた。

6.

事　業　名	事　業　内　容	事　業　成　果
文化財調査研究事業	文化財研究グループの育成事業、本年度、石造文化財研究グループ	とかく埋もれがちの研究グループに調査を委託し助成することにより、研究員の意欲が特に高まった。

館林市指定文化財散歩実施要領

1. 趣　旨

今日の物質中心生活の反省から精神生活の向上が強く叫ばれてきました。

これは、こころ豊かな生活を求める気持ちが強まって来たあらわれでありましょう。

この気持ちは、ふるさとをみつめ直しふるさとの良さを再発見しふるさとを大切にする愛郷心につながる気持ちでもありましょう。

この意味から、このたび市教育委員会では毎月１回、市民のみなさんとご一緒に市内の文化財をめぐり、祖先の生活の知恵や足跡を尋ね、文化財を愛護し大切にする気持ちを高めていただく機会を提供いたします。

ぜひ、ご参加くださるようお願いいたします。

2. 実施主体者

館林市教育委員会

3. 実施の方法

毎月１回（午前９時より）

市マイクロバスを利用

4. 定　　員

毎月２３名（先着順定員になり次第〆切ります。）

5. 集合場所

市役所広場

6. 講　　師

市文化財調査委員及び文化財関係職員

7. 資　　料

指定文化財リーフレットを差し上げます。

こども文化財教室講のお知らせ

1. ねらい

わたくしたちが住んでいるまちは、長い年月にわたって歩んできた歴史があります。しかし、その歩んできた道はわたくしたちにはよくわかっていません。

わたくしたちの祖先が産みだした生活の知恵や、生活のしかた、社会のしくみなどを正しく知ることによって今日まで残されたものをたいせつに守る心が育てられます。このいみから本年度も"こども文化財教室"を開講いたします。

2. 主　催　館林市教育委員会　・　館林市文化財調査委員会
3. 期　日　昭和５０年９月より１２月まで（５回）
4. 場　所　館林市教育研究所
5. 対　象　小学校５年生以上の児童、生徒
6. 学習内容

午前９：００　～　１２：００

内容／月日	学習内容	講師
９月１４日(日)	開講式　郷土の自然（郷土の花・草・虫）	文化財調査委員 島野　好次先生
１０月１２日(日)	郷土の歴史（まちの移りかわり）	教育委員会参事 川島　維知先生
１０月２６日(日)	郷土の文化財（石に刻まれた歴史と伝説）	文化財調査委員 落合敏男、小林一吉先生
１１月１６日(日)	郷土の文化（まちの文化を育てた人たち）	〃 贄田太二郎先生
１２月　７日(日)	閉講式　郷土の建物（すまいの移りかわり）	〃 青木　信一先生

7. 申込み　８月３１日までにハガキに住所、氏名、学年、学校名、電話番号（有線番号）を記入の上館林市大手町９－１９、館林市教育委員会社会教育課文化財教室係あてお申込みください。

昭和51年度「文化財愛護モデル地区」活動実践報告

1. 文化財学習活動

(1) 文化財学習講座等の実施事業

事業名称	内容	成果
こども文化財教室	市内小学生５・６年及び中学生を対象に年間６回、日曜日の午前９時３０分から１１時３０分まで実施する。	市内小中学生、６６名の参加のもとに、専門講師の指導により、熱心に受講し、３分の２（４回）以上出席した３４名

事業名称	内容	成果
	郷土の歴史、郷土の自然、郷土の芸術家、郷土の文化財、郷土の建物を中心に講義と見学を行う。	に修了証を授与する。なお、皆勤した者が２２名いて、極めて熱心な態度で学習した。
市民文化財教室	一般成人と高校生を対象に年間４回、日曜日の午前９時３０分から１１時３０分まで実施する。 郷土の歴史、郷土の自然、郷土の芸術家、郷土の文化財を中心に講議を行う。	ポスター、市広報紙、地方新聞にて受講者を募集したが、参加者は１８名で、少ないときは１回の出席者が５～６名で出席する人はいつも同じ人で全部（４回）出席した者は５名である。 出席者が少なかった反省として「市民文化財教室」というと固苦しく、むずかしく受けとめてしまったのではないだろうか。したがって、学習内容別に「郷土の歴史の移り変わり」とか「自然観察」というようにした方が多く集まるのではないだろうか。 また、室内における学習だけでなく、歴史散歩の方が集まりやすく、なお親子で参加できるような開設をした方がよいのではないかということが考えられる。

(2) 指導者講習会等の実施事業

事業名称	内容	成果
文化財指導者研修会	小学校社会科主任会へ出席をして、文化財愛護思想普及作文募集及び文化財に関する学習を各校で積極的にクラブ活動にとりあげていただくように依頼する。	文化財愛護思想作文募集の趣旨を理解し協力的であった。しかし、当初市内小中学校の社会科と理科担当教師を対象に文化財、郷土史、自然等についての研修会を計画したが、教科部会に立入って研修会を実施することは現状としては困難である。

(3) 学校における文化財学習

(ロ) クラブ活動、部活動

名称	内容	成果
第二小学校郷土クラブ	クラブ員２９名（全員男子）が、郷土の歴史を古老から聞いてまとめたり、拓本のとり方など市内の文化財に関する学習や見学を積極的に行う。	明確な学習目標のもとに、具体的な年間活動計画をたて熱心計画的にクラブ活動にとりくむ。

名　　称	内　　容	成　　果
第二中学校社会クラブ	クラブ員３２名が毎週金曜日の第６時に資料をもとにした校内学習及び日曜日や長期休業を利用して市内に進出し、指定文化財や石仏の写真撮影、測定などを行う。	調査したものを校内文化クラブ発表会に展示する。また、クラブ員自身がガリバン刷りの冊子を作成し、調査したものを記録した。

(4)　その他の学習活動

名　　称	内　　容	成　　果
文化財愛護思想普及作文募集	文化財愛護に関する作文の募集をとおして、児童生徒の文化財に対する関心と認識を深め、文化財愛護思想の高揚をはかることを目的として、小学校５・６年と中学生を対象に作文を公募する。その中から優れた作文を選んで作品集をつくる。	文化財に目を向け大切にしようとする意欲や文化財は見学することによって理解が深められることなどが強調され、児童生徒の文化財に対する関心が高まった。
各種学級教室へ文化財学習の導入	高齢者教室、婦人学級、家庭教育学級等の学習計画に文化財に関する講座を１講座以上設定するようにした。	全学級、教室でとりあげるまでには、いかなったが文化財の学習を積極的にとりあげ専門講師を招いて学習する。ＰＴＡ家庭教育においては、講座だけでなく、市内の文化財めぐりを実施した。
市内文化財めぐり	市民に対する文化財愛護思想の普及啓蒙をはかるために、市役所マイクロバスを使用して、月１回２３名公募し説明者をつけて実施する。	婦人会、ＰＴＡ、老人クラブ等、団体の参加が多く月２～３回実施するような場合がある。今後団体と平行して個人を対象とした文化財めぐりを実施するようにつとめたい。

3.　文化財愛護団体等の育成事業

団体の名称	事　業　内　容	補　助　金　額　等
城町婦人文化財愛護グループ	婦人会員３０名が毎月１回、市指定文化財である館林城跡土橋門附近の清掃活動を行う。	美化活動を通して会員相互の人間関係の深まりと文化財保護及び愛護思想の高揚がはかられた。

（活動費　２０,０００円）

4. 管内の住民一般に対する広報活動

名　　称	内　　容	成　　果
市広報、共済だより、地方新聞、有線放送	文化財に関する記事を随時記載し市民にＰＲする。 必要に応じて有線放送に依頼してＰＲする。	市民の文化財に対する関心は高まりつゝあるが、更に向上するために１つの方法だけでなく色々とＰＲの方法を工夫して一層の効果をあげたい。
文化財スライド	指定文化財のスライドを作成し活用につとめる。	現在文化財調査委員に依頼して作成中である。
文化財冊子、リーフレット	冊子、リーフレットの活用を通して文化財のＰＲをする。	文化財研究家及び一般市民に提供し大変よろこばれている。 なお、リーフレットは、市内文化財めぐりに参加した人に配布し資料として役立たせている。

小学校５・６年生と中学生のみなさんへ

こども文化財教室開設のお知らせ

館林市教育委員会では、文化財調査委員の先生方のご協力によって、「子ども文化財教室」を開くことになりました。

郷土の歴史や自然などを知るのによい機会ですので、すすんで参加してください。

こども文化財教室開設要項

1. 講座内容

時間はいずれも、午前９時３０分から１１時３０分までです。

回	期　　日	学　習　内　容	講　　師
1	９月　５日(日)	郷土の歴史（まちの移り変わり）	県史編さん室 川島　維知先生
2	９月２６日(日)	郷土の自然（花・草・虫）	文化財調査員 島野　好次先生
3	１０月　３日(日)	郷土の芸術家（田山　花袋・藤野　天光 小室　翠雲・他）	〃 贄田太二郎先生
4	１０月２４日(日)	郷土の文化財（石にきざまれた歴史と伝説）	〃 落合　敏男先生
5	１１月　７日(日)	〃　（遺跡と祖先の生活）	〃 小林　一吉先生
6	１１月２１日(日)	郷土の建物（すまいの移り変わり）	〃 青木　信一先生

※　都合により変更があるかもしれません。

2. 場　　所　　館林市文化会館

3. 対　　象　　小・中学生（小学校５年生以上）　定員５０名で先着順

4. 受講料　無料

5. 申込み方法

(1) はがきに、住所、氏名、学校名、学年、電話（有線）番号を書いて、館林市大手町９－１９、館林市教育委員会社会教育課へ申込んでください。

(2) 電話でもけっこうです（電話３－５４１３　有線２２９２）

館林市教育委員会

広報
たてばやし

編集　秘書課

昭和５１年８月１０日発行　　お知らせ版

子ども文化財教室を開設

市教育委員会では、文化財調査委員の先生がたのご協力により、小学校５・６年生と中学生を対象に下記のとおり「子ども文化財教室」を開くことになりました。

郷土の歴史や自然などを知るのによい機会ですので、すすんで参加してください。

記

1. 講座内容

回	期日	学習内容	講師
1	９月　５日(日)	郷土の歴史（まちの移り変わり）	県史編さん室 川島　維知先生
2	９月２６日(日)	郷土の自然（花、草、虫）	市文化財調委員 島野　好次先生
3	１０月　３日(日)	郷土の芸術家（田山　花袋、藤野　天光 小室　翠雲他）	〃 贄田太二郎先生
4	１０月２４日(日)	郷土の文化財（石にきざまれた歴史と伝説）	〃 落合　敏男先生
5	１１月　７日(日)	〃　（遺跡と祖先の生活）	〃 小林　一吉先生
6	１１月２１日(日)	郷土の建物（すまいの移り変わり）	〃 青木　信一先生

※ 時間はいずれも午前９時３０分から同１１時３０分までです。

※ 都合により変更があるかもしれません。

2. 場所　市文化会館

3. 対象　小・中学生（小学校５年生以上）　定員５０人で先着順

4. 受講料　無料

5. 申し込み方法　○ はがきに住所、氏名、学校名、学年、電話（有線）番号を書いて
館林市大手町９－１９
館林市教育委員会社会教育課へ申し込んでください。
○ 電話でも結構です。（電話３－５４１３番　有線２２９２番）
（市教育委員会）

第 1 回　　9月　5日(日)

郷土の歴史（まちの移り変わり）

講師　群馬県史編さん室　川　島　維　知

1. 城下町（館林）の移り変わり

室町時代以降、武将、大名の城を中心に発達し、武士団や商工業者が集住した町。館林の城下町は古くは青柳城下より移されたものといわれている。

青柳城（佐貫町）→ 大袋城 → 館林城

城下町

① 連雀町・並木町・仲ノ町・関ノ上

城下町？

② 連雀町・並木町・伴木・道場小路・丸屋敷・加法師・白山・大御堂・若宮・（（赤井氏当時）

③ 連雀町・並木町・伴木・道場小路・堅町・丸屋橋・土橋・加法師・白山・大御堂・若宮（長尾・北条氏当時）・足利町・目車町・裏宿

④ 連雀町・並木町・堅町・足利町・加法師・金山・木挽町・鞘町・材木町・石町・大工町・台宿町・塚場町・紺屋町（本・新）・目車町・谷越町・鍛冶町・　町・風呂町・催促町・弓町・家内町（榊原氏以後）

2. 宿（しゅく）の移り変わり

宿とは臨時の労力供給者、あるいは外来の諸識、もしくは行商の徒の仮住を許した郭外の地区

裏宿 ―― 台宿 ―― 荒宿 ―― 新宿

- 裏宿：長尾・北条氏当時の町人街
  榊原氏以後の武家屋敷
- 台宿：榊原氏以前台宿原と称し足次、館林の入会地
  榊原氏ごろより館林城下町
- 荒宿：榊原氏当時の新宿
- 新宿：荒宿の町が南にのび新宿となる

3. 道　路

(1) 日光脇往還と札の辻（大辻）―― 慶長2年（1597）新設

(2) 旧小田原街道 ┬ 佐野街道（新設年代 ―― わからない）
　　└ 藤岡街道（　〃　―― わからない）

4. 館林藩の刑場

(1) 日向刑場

(2) 青柳刑場

(3) 鞘町の牢屋敷

5. 鉄道の開通（明治40年8月27日）と館林

6. 住居表示実施（昭和42年7月1日以降）によってなくなった町名

7. これからどう変わるか

第2回　　9月26日(日)

郷土の自然（花・草・虫）

講師　文化財調査委員　島野好次

1. 市の花、市の木、市の鳥について。

2. つつじケ岡公園（花山）はなぜたいせつにしなければならないのか。

3. 館林でめずらしい植物といわれるものにどんなものがあるだろうか。

4. 虫を食べる植物「ムジナモ」が館林で発見された話あれこれ。

5. 館林の動・植物を研究した人たち。

- 高野貞助先生
- 松村源蔵先生

6. いま館林のどこに昔からの美しい自然が残っているだろうか。

7. 自然を守ることのたいせつさ。

8. 館林の人たちにわかってもらいたいこと。

第３回　１０月　３日(日)

郷土の産んだ芸術家（田山花袋、藤野天光、小室翠雲、他）

講師　文化財調査委員　贄　田　太二郎

A　田　山　花　袋　（１８７１～１９３０）

・　名は録称　明治4.　12.13（旧歴）尾曳町に生まれる。

昭和5.　5.13　東京都代々木の自邸で病没。６０才

十郎
てつ
- いつ
- 実弥登
- かつよ
- 録弥（花袋）
- 富弥

・　花袋の少年時代

・　作品「ふるさと」明治32.　9　新声社

「川ぞひの春」大正8.　1　やまと新聞

・　花袋の史跡めぐり　館林市・千代田村赤岩・羽生市等

B　小　室　翠　雲　（１８７４～１９４５）

・　名は貞次郎　明治　7.　8.31　館林市本町に生まれる。

昭和２０.　3.30　東大病院で病没。７１才

牧三郎
ふき子
- 貞次郎（翠雲）
- ます
- とく
- 佐四郎

・　師田崎草雲と南画

・　作品「寒林幽居」「濯足万里流」

・　翠雲の史跡　千眼寺・常光寺

C　藤　野　天　光　（１９０３～１９７４）

・　名は隆秋　明治36.　9.27　館林市朝日町に生まれる。

昭和４９.12.30　市川市南八幡町で病没。７２才

松五郎
きん
- たか（藤野書店母堂）
- 近藤（天折）
- 明（後に隆秋）

・　天光の号　鷹明　舜正　正光（昭和４２年改号）

・　藤野天光遺作展（昭和５０.　6.29(日)・文化会館）

・　昭和３年　東京美術学校彫塑部卒。　昭和５０年　勲三等瑞宝章

D その他

第 4 回　10月24日(日)

郷土の文化財（石にきざまれた歴史と伝説）

講師　文化財調査委員　落　合　敏　男

1. 佐貫氏とそのお墓

佐貫氏の墓は、つつじ会館のしき地の南すみに安置されている。これらの墓石は、昭和45年に神戸生糸KK館林工場内より発見されたものである。

2. 榊原康政のお墓

康政の墓は善導寺にあり、宝篋印塔で、高さ約5mの大型のものである。康政は、徳川四天王の一人、天正18年館林城主（10万石）となる。

3. 義人小池藤左衛門のお墓

田谷観音堂の墓地にある。藤左衛門は、館林騒動の三義人の一人である。館林城主松平清武が高い年貢を割当てたことにはじまる。

4. 竜積寺のハシカ地蔵

青柳の竜積寺にある。総高約2.8mのお地蔵さま。もと青柳刑場は付近にあったが、明治42年にこの地に移された。

5. 大阪みやげの大鳥居

上三林の雷電神社にある。寛政11年、荒川弥五右衛門が伊勢まいりの際、大阪で買いもとめてきたもの。

6. 大谷休泊のお墓

高根にある。県の指定史跡。休泊は、大永元年に生まれ土木の道にすぐれ、この地方の用水堀をつくったり、荒れ地の開こん、松の植林等の大事業をした。

7. 明善寺のいぼ地蔵（阿弥陀如来）

大島字寄居にある。むかし、この地蔵さまが、水あびをするこどもたちの衣類の番をしたという話がある。

8. 子の神の力石

9. 板　碑

第 5 回　11月 7日(日)

郷土の文化財（遺跡と祖先の生活）

講師　文化財調査委員　小　林　一　吉

1. 旧石器時代（約200万年～1万年前）

- 館林・邑楽の人々はどこからきたのか。
- 大むかしの人々の暮らし。

・ 関東ローム層について。

岩宿遺跡

葛生原人

館林市高根　山神脇遺跡

館林市成島　水溜遺跡

2. 縄文時代（約１万年～２千３００年前）

・ 具塚というのは何か。

・ どんな家に住んでいたか。

・ 道具はどうやって作ったか。

・ 縄文式土器はどんな方法で作ったか。

海老瀬具塚

館林市高根　外和田遺跡

〃　堀工　分福蛇沼遺跡

〃加法師町　外加法師遺跡

3. 弥生時代（約２千３００年～１千７００年前）

・ 農業のはじまりと生活の変化。

・ 田んぼはどのようにしてつくったか。

・ 倉にはどんな工夫がされているか。

・ 弥生式土器はどんな方法で作ったか。

館林市高根字寺内　高根遺跡

4. 古墳時代（約１千７００年～１千３００年前）

・ 古墳とは何か。

・ 古墳の中はどうなっているのか。

・ はにわはどうやって作ったか。

・ はにわはどんな形があるか。

・ どんな服装をしていたか。

館林市高根　天神二子古墳

〃　近藤　伝右エ門遺跡

〃　当郷　山王山古墳

〃　西本町　愛宕神社古墳

◎　市立図書館２階展示室

館林・邑楽地方にある遺跡より出土した石器・土器やはにわを見ると、そのころの人々の生活を知ることができる。

第 6 回　　11月21日(日)

郷土の建物（すまいの移り変わり）

講師　文化財調査委員　青　木　信　一

1. 原始時代の生活
2. 木造と石造のすまい
3. 郷土の家屋
4. 未来のすまい

市民のみなさんへ

―― 市民文化財教室開設についてのお知らせ ――

館林市教育委員会では、文化財調査委員の先生方のご協力によって、「市民文化財教室」を開設することなりました。

郷土・館林の自然や歴史、文化を知るよい機会ですので市民のみなさんのご参加をおねがいいたします。

市民文化財教室開設要項

1. 講座内容

回	期　日	学　習　内　容	講　師
1	10月24日(日)	郷土の歴史（生活の移り変わり）	県史編さん室 川島　維知先生
2	11月21日(日)	郷土の自然（花・草）	文化財調査員 島野　好次先生
3	1月23日(日)	郷土の芸術家（田山　花袋・藤野　天光 小室　翠雲・他）	〃 贄田太二郎先生
4	2月20日(日)	郷土の文化財（石仏・遺蹟）	〃落合　敏男先生 小林　一吉先生

※ 1. 時間はいずれも午前9時30分から11時30分までです。
　 2. 都合により、計画に変更があるかも知れませんが、ご了解ください。

2. 場　　所　館林市文化会館
3. 対　　象　市民一般（高校生以上）　定員50名で先着順
4. 受 講 料　無　料
5. 受講申込み
   (1) はがきに、住所、氏名、年令、職業、電話（有線）番号を記入して、館林市大手町9－19館林市教育委員会市民文化財教室係宛申込みください。
   (2) 電話申込みでもけっこうです。（電話3－5413　有線2292）

昭和51年度館林市第二小学校郷土クラブ

1. クラブ員　２９名　（全員男子）　４年１６名５年８名６年５名
2. 指導者　落合敏男　　川口範子
3. 目　標
   ① 市内の史跡等に関心を持ちくわしく知ろうとする態度を身につけさせる。
   ② 古老等の話を聞いてまとめることができるようにする。
   ③ 拓本（かん拓）がとれるようにする。
   ④ 文化財を大切にしょうとする態度を養う。
4. おもな活動予定
   - 応声寺の館林城鐘の見学　　鐘の簡単な見方
   - 善導寺の榊原康政の墓の見学
   - 三の丸の土るいとその周辺
   - 尾曳神社の見学
   - 市立図書館の資料の見学
   - 記念碑の調査
   - 古老の話を聞いてまとめる。
   - 拓本のとり方
   - 工場見学
5. これまでのおもな活動
   5月２７日(木)　善導寺の榊原康政の墓の見学をする。
   6月１０日(木)　青梅天神の見学をする。絵馬、拓本のとり方。
   7月　１日(木)　初曳稲荷の見学をする。館林城築城、拓本のとり方。
   9月　９日(木)　館林の歴史について話を聞く。二学期の予定。
   １０月　７日(木)　校内の歴史しらべ、古道具、古教具の調査
   １０月１４日(木)　地名について話を聞く。
   １０月２８日　文化財についての作文
   １１月１８日(木)　三の丸とその周辺の見学をする。
   １２月　２日(木)　田山花袋の旧居を見学する。
   １２月２４日～１月７日　自由調査（むかし話・記念碑・古道具・交通量）
   ２月１０日(木)　森田一三郎氏（明治２１年１月１日生）に来校していただき１時間２０分むかし話を聞いた。
   ３学期　第二小学校の模型づくり
6. 反　省
   - 工場見学を予定しておったが見学できなかった。
   - 見学のまとめが遅れた。

昭和51年度文化財愛護思想普及作文募集要項

館林市教育委員会

1. 趣　　旨　文化財愛護に関する作文の募集をとおして、児童生徒の文化財に是する関心と知識を深め、文化財愛護思想の高揚をはかる。

2. 応募規定

(1) 資　　格　小学校５・６年生及び中学生

(2) 題　　名　自　由（ただし趣旨に度するもの）

(3) 内　　容　（具体的な事項で）

① 郷土の文化財の紹介

② 郷土の芸能の保存

③ 郷土の祭

④ 郷土の芸術家

⑤ 開発と遺跡（古墳）の保護

⑥ 天然記念物の保護

⑦ 郷土クラブ、自然クラブ等クラブ活動の紹介

⑧ わたしの郷土（自然）研究

⑨ その他文化財の保存愛護に関係あるもの

(4) 様　　式

① 原稿用紙（Ｂ４　４００字詰）　３～５枚にまとめる。

(5) 各校の提出点数

① 小学校　５・６年の学級数以内

② 中学校　学級数以内

(6) 〆　切　日　９月１０日（教育委員会社会教育課へ提出）

3. 審　　査　文化財調査員、学識経験者若干名を委嘱し審査を行う。

4. 表　　彰　最優秀賞（１点）、優秀賞（５点）、佳作（若干）

5. 参 加 賞　予算の範囲内で参加賞を授与する。

6. 発　　表　入賞作品の発表については検討の上定める。

昭和51年度文化財愛護思想普及作文
優秀作品集

目　　次

小学生の部

1. 先祖の残したものを大切に（最優秀作品）　5小　6年　尾花秀之
2. 館林の文化財を見学して（優秀作品）　2小　6年　森田秀之
3. 子ども文化財教室に学んで（優秀作品）　3小　6年　橋本悦子
4. 文化財を大切にしょう（優秀作品）　1小　6年　荻原　浩

中学生の部

1. 文化財の保護について（最優秀作品）　2中　2年　安西隆弘
2. 郷土の自然とその愛護（優秀作品）　多中　3年　原　孝誌
3. 館林市の文化財「館林城跡」について（優秀作品）　2中　3年　新井　健

佳　作

小学生の部

1. 文化財を大切に　5小　6年　藤沢　宏
2. 郷土クラブの活動について　2小　6年　恩田　健
3. 文化財を大切に　1小　6年　小林信義
4. 親しまれる分福茶がま　3小　6年　金田七美
5. ぼくらの県立つつじが岡公園　3小　6年　武田富仁
6. 文化財　4小　5年　磯　小百合
7. 文化財

中学生の部

1. 郷土の文化財とその愛護　多中　3年　山岸信浩
2. 館林城と歴代の城主　2中　3年　酒井健一
3. 茂林寺沼及び低地湿原　2中　3年　金子　稔
4. 館林の歴史　2中　3年　小倉　隆
5. 文化財の愛護について　2中　3年　太田佳伸

小学生の部

（最優秀作品）

先祖の残したものを大切に

五小　6年　尾　花　秀　之

この間の授業で、先生が、昔の古い書物や絵を見せてくださいました。

どうして江戸時代のころの古い資料が残っているのか、不思議に思いました。ぼくは、そんな長い間、どうやって保存されてこられたのか、調べて見たいと思いました。

よっぽど、先生の先祖達は、大切なこれらの古いものを宝物のように保存して来たのだなと、感心してしまいました。

野仏が、土や草にうまっているのを見たことがあります。皆んなそういう古いものをどうして大切にしてやれないのかと思いました。

ぼくは、なぜ皆んながわすれてしまうのだろうと、いつも考えさせられてしまいます。考えているだけで、自分もあまり大切にあつかったことはありません。

それで、人にだけ言うのはまちがっていると思っています。

今では、文化会館になってしまっているが、昔はそこに城があったと聞いておどろきました。なぜ、城をなくしてしまったのだろうと思い、先生に質問してみると、火事で燃えてしまったのだよと教えてくださいました。

その火事がなければもっと城の事がわかったのにと、思うと燃えてしまったことが残念でなりません。

楠木神社には、楠木正成の首がまつってあると言う伝説があるが、先生のお話によると、関西地方から首をはこんで来たとしたら、昔の人はたいへんなことをやったということです。ぼくもそんなことができたらすごいことだと思いました。

それは、伝説として伝わって来たのならあってもいいのではないかと、思っています。

馬頭観音をいくつも見たことがあります。馬頭観音は、昔の人々が死んだ馬をまっって建てたものです。

なぜ、そんなに大事にしたのだろうかとぎもんに思うとそれは、畑をたがやしたりするのに馬や牛を利用していたからだと、いうことがわかりました。

自分の身近な所を調べることは、昔の様子や、農業の様子など、またどんなことをして生活を建てていたのかと思い、これからもいろいろ調べていこうと思っています。

これからは、古いものに目を向けて、昔のことを知り、文化財を大切にしていくためにも、皆んなに呼びかけていきたいと思っています。

（優秀作品）

館林の文化財を見学して

二小　6年　森　田　秀　之

８月１０日の日に松原子ども会が、館林の文化財について知ってもらおうということなので、ぼくは、すすんで参加した。

集合場所は、松原公民館で乗りものは、館林市のマイクロバスで、説明してくださったのは、K先生だった。

バスの中に入るとまずパンフレットをくださった。パンフレットの中には、１８種類の文化財が、のっていたが、みんなが、行ったことのあるものは、はぶいて１１種類の文化財を見学することになった。

見学コースは、茂林寺の方から普済寺・善長寺・田山花袋の旧居・田中正造の墓・つつじ会館・尾曳神社などです。文化会館でおべんとうをたべ、午後は、大道寺・善導寺・大谷休泊の墓・タテバヤシザサの自生地を見学し、公民館に帰ってきた。

見学した中ですでに見学したことのあるものもあったが、これが、文化財だと知っていたものは、少なかった。このように文化財については、あまり知らなかった。

見学したもので印象に残ったものは、たくさんある。まず普済寺の銅鐘、善長寺とそのふ近の山王山古墳、赤井の祖佐貫氏の墓、榊原康政の墓、タテバヤシザサの自主地の六種類の史跡や天然記念物だった。

普済寺の銅鐘の感想は、この寺の鐘は、なん度も見たことが、あったが、これが、文化財になっている銅鐘などとは、思ってもみなかった。このように見たことが、あっても文化財だと知らないものが、ほかにもあった。

善長寺については、善長寺のいわた帯をするとじょうぶな、赤ちゃんが、生まれるというので、アメリカの方からくる人が、いるとK先生が、説明してくださったが、なんだか信じられないようにも思えた。

山王山古墳は、草や竹でよくわからなかったが、K先生が、

「これは、前方後円墳ですよ。」

と、いわれた時に、ぼくが、

「おり姫山のとだいぶちがうな。」

と言ったら、K先生が、

「冬になれば、ああゆうふうになりますよ。」

と、おしえてくださった。そのため冬にもう一度きて、たしかめようと思った。

赤井の祖佐貫氏の墓は、つつじ会館にあり、五輪塔がたくさんあった。五輪塔についてK先生が、説明してくださった。それは、空輪・風輪・火輪・水輪・地輪の５つから組み合さっているところから、そうよぶそうである。

榊原康政の墓については、徳川四天王の１人として知られる康政の墓が、どんなものかという興味があった。墓石の高さは、５.１５メートルというひじょうに高い宝きょういんとうである。

最後にタテバヤシザサを見せてくれた。さわってみたりしたので、だいたいの特長が、わかったところで、子ども会の会長さんが、

「特長が、わかったら見に行こう。」

と、いったので見に行ったが、みつからなかった。しかしおじいさんのものをさわってみたのでよかったと思う。

このようにいろいろな文化財について知ることが、できたので参加してよかったと思っている。

（優秀作品）

子ども文化財教室に学んで

三小　６年　橋　本　悦　子

私は、今年初めて、この子ども文化財教室にはいってみました。

最初の日は、「郷土の歴史（まちの移り変わり）」ということについてのお話でした。中でも「しょ刑」のことが心に残りました。それは、死刑になった人が、土にうめられてのこぎりで、首を切られたのだそうです。この事を聞いて、昔の人はとてもざんこくな事をしたのだと思いました。それからとても、おもしろいと思ったのは、ある人が、せっぷくをしていると中で刀がよく切れないといい、とぎ石をもってこさせ、よくといでから、せっぷくをして、死んだということでした。その他、城の移り変わりなどおもしろい話が、たくさんありました。こんなにいろいろな、たくさんの歴史の事について、話してもらって、私は、びっくりしました。

この後、「郷土の文化財」や「郷土の建物」についてのお話がありますが、また出席して、いろいろな歴史について知りたいと思います。

このような、館林の歴史や文化財を、勉強の中にもとりいれ、もっともっと歴史や文化財のことをくわしく知りたいと思います。

私達にとって郷土の歴史や文化財は、とても大切なものだと思います。ですから、これからみんなで歴史や文化財のことについて話し合い、いろいろと考えてみたりしたらよいのでは、ないのでしょうか。

そしていつまでも、この館林（郷土）の歴史や文化財を残していきたいと思います。

そのために、私達がこれから、よい歴史を残すためにおおぜいの人と協力して、たくさんの人々と話し合いをして、いつまでも、よい歴史を残すように、がんばりたいと思います。

そして私達の手でこれから館林市の文化財をたいせつに守り、後世の人達に伝えていきたいと思います。

そのために、私達も、お父さんも、お母さんもみんながいっしょになって館林市の文化財を大切に保存しょうではありませんか。

（優秀作品）

文化財を大切にしよう

一小　6年　荻　原　　浩

ぼくたちの住んでいる日本は、世界でも古い歴史をもっている。その歴史を知るために、古い時代のものとしては、いせきやいせきの中から出てきた品物があるし、それから新しい時代になると、建物や書物など日常つかっていたものが残されていて、その時代の人達がどのように生活していたかとか、生活の変り方、文化の発達の状態などがわかる。

このようないせきとか美術品の中で、これから残しておきたいものは、国や県や市町村で、それぞれ文化財として指定して保護されている。

その中で国が指定している国宝や重要文化財は、他のものとくらべるとげんじゅうに保護されている。県や市町村でも指定したものは大切に保護されている。しかし、こわされたり、落書きされたりしてだんだんむかしの文化を知るために大切なものがなくなってきている。国が指定しているものは国として残しておきたいものであるし、地方で指定しているものは地方で残しておきたいものなのだ。

両方ともむかしの文化をしるために大切なものなのだから同じかちがあると思う。

しかし、ぼくたちの身の回りを見ても、特別なものをのぞいては、古い建物などは、ほとんどなくなり、わらぶきの屋根の家などめずらしくなってしまった。少し残っているものでも子供達の遊び場になってしまったり、落がきがしてあったり、こわれかかっている。

電車の窓などからときどきみえるわらぶき屋根の家などを見ると歴史を感じる。

親せきの家などでも新ちくをしたばかりだが、ずいぶんまよったそうです。でもその屋根をなおす人も少なくなっているし費用も、たいへんかかるそうです。夏はすずしく、冬はあたたかく、とてもすみよかったそうです。

このように古い建物が、だんだんぼくたちの近くからなくなっていくのだなと思うと、なんだかざんねんな気がします。

せめて今残っているものくらい一人一人が大切にして見守るようにしていこうと思います。

中学生の部

（最優秀作品）

文化財の保護について

二中 2年 安西 隆弘

文化財、それは、かけがえのない遺産である。調査に来た人々を驚かせ、また、見学に来た人々を感嘆させるすばらしき財宝なのである。ところが実際は路傍にポツンと寂しそうに立っているものや、ひっそりとしたお堂の中に置かれたりしているものがほとんどではないだろうか。

そこで考えなければならない事がある。それは、いうまでもなく、文化財の保護についてである。このような事業は、中心者がひとりだけで一生懸命頑張っても、どうにもならないのである。つまり、一般の人々の協力を必要とする心があれば、それは非常に簡易なことなのである。また、そうしない限り、昔の人々の残してくれた宝を無駄にしてしまう結果になるのである。

そこで、具体的にはどの様なことをしたらよいのか。

まず、第1には、「文化財を汚さないように。」ということである。ぼくの住んでいる大島の山王には、大変立派な「日限地蔵菩薩像」がある。しかし、ぼくが小さい時から今まで、それに書かれた落書きは少しも減っていないように思う。それどころか次第に増加してきたとさえも思える。考えてもらわなくてはならないのはここである。「汚されている、よごされている。」という問題は文化財ばかりではなく、万国共通だとぼくは思う。その大問題を解決させるのはとても困難なことである。しかし、これだけは言えると思う。「昔の人々が一丸となって作ったものは現在の人々が一丸となって守って行こう。」と。

次に考えられるのは、「この文化財をより多くの人々に知らせよう。」ということである。これは、文化財を見学し、人々がそのすばらしさに感嘆すると共に、その時代時代の人々の生活等を深く心に刻んでもらおうという考えからである。しかし、文化財から得る歴史の重みというものは、皆さんが想像している以上にずっしりと重いものだと思う。その重みをこらえ、深く心に刻みこんだ人だけが、この偉大なる遺産の味を知ることができるのでしょう。

最後に考えられるのは、「この文化財を未来の大遺産にして行こう。」ということである。それは、単に言うと、昔の人々の心を描いた文化財をそのまま現在から未来に伝えようということである。簡単そうで非常に困難な仕事である。しかし、それをやってのけて、初めて得る心の栄養とは偉大なものであろう。昔の人々のために、また現在の人々のためにも、ぜひ、やり遂げなければならない仕事である。

文化財、それは、過去の世界のものであり、また、未来の世界のものでもある。小さな石から大きな像までさまざまである。人々に昔の面影を伝える文化財、それが、人々の協力を得て、未来へと保護されるときに、文化財に対する関心が大きく向上するのではないだろうか。

郷土の自然とその愛護

多々良中　3年　原　　孝　誌

僕達の住む館林市はつるの形をした群馬県のくちばしに当たり、県の最も東の方で、南に利根川、北に渡良瀬川が流れており、たいへん美しい町です。この館林市は大きく六つの地区に分かれており、僕達の住む多々良地区は、市の西端にあり、他の５つの地区よりも自然環境のすぐれたところと言えます。なぜならば、多々良地区には、あの水面の美しい多々良沼と大谷休泊によって高根砂丘に植林された松林があるからです。この両者は多々良地区ばかりでなく、館林市の自然の宝物としても大切な存在と言えます。僕は、幼いころから、魚つりや虫とりなどで、なじみ深い多々良沼が、年々破壊されていく傾向にある姿を、近ごろ強く感じています。そこで僕は多々良沼の自然に焦点をあてて、今後のあり方について書いてみたいと思います。

館林市誌を見ると、詩人の佐藤春夫氏（明治２５～昭和３８年）が館林を昭和３５年１２月に来遊しています。その時に作った詩に次のようなものがあります。

館林市外たたら沼
去年「新雪の山遠し沼ところどころ」と
口吟せしところ今日来で見れば
柿若葉うつくし土堤の家
芦荻はさやかに角ぐみ水はいぶし銀を帚く
（以下略）

僕にはちょっとわからないところがありますが、多々良沼の自然の美しさを賞讃していることだけはわかるような気がします。

佐藤春夫氏は、その翌年も館林に再遊しましたが、その時は花のつつじを見ることが目的だったそうですが多々良沼がもう一度見たいと言って、再度沼まで足をのばしたそうです。その時「新雪にかがやいて名山が四方をめぐらしたなかに沼がところどころ光って山容水色、野越はなはだに美しい」といってその美しさをほめたたえたと言われています。僕はそんな佐藤春夫氏の詩やことばを調べているうちに、自分の身近にこのようにすばらしい自然があることをほこりに思わずにはいられませんでした。しかし自然の宝庫だった多々良沼も１０年ぐらい前から天然記念物だったタヌキモ、ムジナモなどが全滅に等しい状態になり、今ではタテバヤシザサ、タタラカンガレイぐらいしかなくなってしまったそうです。これらの原因は、農薬の流入や沼の干拓による水位の変化、心ない人々の乱穫などにあるそうです。また５年ぐらい前からは水が濁りだし、沼の周囲も空カンやごみくずで汚されてしまい、まことに残念な状態になってきています。

このように、郷土のほこりである多々良沼の自然がだんだん汚され、破壊されていくということは非常に残念でたまりません。これ以上、自然を汚すまい、こわすまいは当然のことであり、昔の自然にもどそうとする努力が必要なのです。僕達の祖先と共に存在してきた多々良沼、天然記念物の宝庫である多々良沼をもっともっと大切にしょうではありませんか。郷土の自然を未来に持ちこすのは、僕達の大きな責任であると思います。

（優秀作品）

館林市の文化財「館林城跡」について

二中　3年　新　井　　健

僕は、館林市の文化財の中で、城跡のことを書こうと思います。それは、修学旅行、その他の見学で、城や石碑を見学した時に、いつも感激させられたからです。それで城に心をひかれるようになったのです。

さて、館林城跡といっても、現在残っているのは、土塁のほかは三の丸土橋門と八つの石碑ぐらいだと思います。この城が、完全に残っていれば、この文化財を愛護する気持ちもでてくるのだと思います。

城のことについて少し述べてみたいと思います。城は天文元年（１５３２）豪族赤井照光によって築城されたと伝えられ、築城には狐に教えられたという伝説があり、このため尾曳城ともよばれています。家康の関東入封後は榊原康政が十万石に封ぜられて入城、城郭、城下町は、この時大いに整備された。その後、徳川綱吉２５万石に封ぜられ名城ととなえられた城も一時廃城、のち松平清武によって再築された。しかし、明治７年（１８７４）３月、この城は大火にあって焼失、再びその威容を見ることができなくなったそうです。現在残っている三の丸土橋門は、復原したものだそうです。

土橋門をよく観察してみると、復原ではなく、もともとここにあったような気がします。また城の形や様子などが頭の中に浮かんできます。

また、８つの石碑を調べてみると、漢字が多いのに気づきます。それは、館林藩主秋元志朝頌徳碑・城沼懇田碑・高橋済翁の碑・岡谷瑳介の碑・田中有文の碑・東寧大屋氏の碑・惺斎田中先生の碑・桜樹記念碑などすばらしい石碑ばかりです。

これは、昔の人達の歩みを物語っているものです。僕達は、それにより、昔の人々の考え方や、その当時の文化のあり方を、しみじみと知ることができるし、また、僕達が、どうあるべきかなども考えさせられます。

このように、館林のほこりである城の歴史を皆さんに知ってもらい、そして、守っていかなければならないと思います。

僕達ひとりひとりが文化財のよさを知り、大切にしていくことを願っています。

広　報
たてばやし

昭和５１年１１月２０日発行　　編集　秘　書　課

第６７号

お　知　ら　せ　版

文化財めぐりの開催について

市教育委員会では、市民の皆さまに文化財に対するご理解と文化財愛護思想を高めていただくために、市内の文化財めぐりを下記により開催いたします。

記

1. 期　　日　　１２月１０日（金）午前９時～午後３時３０分
2. 乗　　物　　市マイクロバス
3. 参加費　　無　料　（昼食は各自ご持参ください）
4. 集合場所　　市役所広場　（午前９時集合）
5. 定　　員　　２１人（定員になり次第先着順で締め切ります）
6. 講　　師　　市文化財調査委員　　贄　田　太二郎　先生
7. 参加申し込みは

(1) 住所、氏名、年令、職業、電話（有線）番号を記入して、館林市大手町９－１９館林市教育委員会社会教育課（電話３－５４１３番、有線　２２９２番）さてに申し込みください。

(2) 番話（有線）申し込みでも結構です。

（市教育委員会）

狩猟事故防止について

いよいよ狩猟シーズンがやつて来ました。今年も１１月１５日から解禁となりましたが、狩猟はちよつとした不注意から大きな事故になりますので、次のことに十分注意してください。

○　公道では銃をむきだしにしないて銃袋に入れる。

○　禁止場所をたしかめましよう。今年から多々良沼の防風林と近藤沼苗木地区が銃猟禁止地区となりました。

○　農耕地や幼齢造林地に踏みこんで、所有者に被害をあたえないように注意しましよう。

○　電話線に向つての発砲はやめましよう。

○　公道人家周辺での狩猟は絶対やめましよう。

○　銃とたまは確実に保管して盗難紛失事故のないよう注意しましょう。

○　危険なハンターを見かけたときは、すぐ１１０番に通報してください。

（館林警察署）

河川敷における工作物の取り扱いについて

河川敷に無断でビニールハウスなど工作物を設置したり、築造したりしますと、河川の適正な管理に支障を及ぼすため禁止されています。河川法の主旨を十分理解されて、河川敷に工作物を設置したり、築造したりしないようご協力をお願いします。

（館林土木事務所）

館　林　市　民　憲　章

1. わたしたちは、いつも健康で、明るい家庭をつくりましょう。
1. わたしたちは、いつも元気で働き、力をあわせて豊かなまちをつくりましょう。
1. わたしたちは、いつもきまりを守り、うるわしい社会をつくりましょう。
1. わたしたちは、いつも人をうやまい、子どもやとしよりのためにつくしましょう。
1. わたしたちは、いつも郷土を愛し、文化を高めましょう。

館林市指定文化財散歩実施要項

1. 趣　　旨

今日の物質中心生活の反省から精神生活の向上が強く叫ばれてきました。

これは、こころ豊かな生活を求める気持ちが強まつて来たあらわれでありましょう。

この気持ちは、ふるさとをみつめ直し、ふるさとの良さを再発見し、ふるさとを大切にする愛郷心につながる気持ちでもありましょう。

この意味から、このたび市教育委員会では毎月１回、市民のみなさんとご一緒に市内の文化財をめぐり、祖先の生活の知恵や足跡を尋ね、文化財を愛護し大切にする気持ちを高めていただく機会を提供いたします。

ぜひ、ご参加くださるようお願いいたします。

2. 実施主体者

館林市教育委員会

3. 実施の方法

毎月１回（午前９時より）

市マイクロバスを利用

4. 定　　員

毎月２３名（先着順定員になり次第〆切ります。）

5. 集合場所

市役所広場

6. 講師

市文化財調査委員及び文化財関係職員

7. 資料

指定文化財リーフレットを差し上げます。

8. 順路

AM9：00
市役所 ⟶ 茂林寺（茂林寺沼 野鳥の森） 着9：15 発9：45 ⟶（車中説明）⟶ 普済寺（銅鐘） 着9：55 発10：06

⟶ 善長寺（祥宝院殿の墓） 着10：18 発10：40 ⟶ つゝじケ岡第二公園（赤井氏の祖 佐貫氏の墓） 着10：43 発10：58 ⟶ 田山花袋旧居（県立つゝじケ岡公園 生祠秋元官） 着11：00 発11：20 ⟶

昼食・休憩
図書館（城跡 生田萬の書跡）（11：30 12：30）⟶ 大道寺（生田萬父祖の墓） 着12：35 発12：50 ⟶ 善道寺（榊原康政の墓） 着12：55 発1：22

⟶ 応声寺（城鐘） 着1：26 発2：00 ⟶ 愛宕神社（青石地蔵 板碑） 着2：02 発2：06 ⟶ 五宝寺（不動まんだら板碑） 着2：10 発2：20 ⟶

雲龍寺（田中正造の墓） 着2：30 発2：45 ⟶ 龍興寺（北条氏虎卯制礼） 着2：55 発3：00 ⟶ 松沼町（六谷休泊の墓） 着3：10 発3：16 ⟶

成島（老人ホーム内）（タテバヤシザサ） 着3：25 発3：30 ⟶ 市役所 PM3：50

9. 経費　無料（昼食は各自でご用意下さい。）

10. お申込み　毎月15日までに市教委へ電話でお申込み下さい。

（(3) 5413）

昭和５０年度「文化財愛護モデル地区」活動

吾　妻　町

1. 文化財学習活動

(1) 文化財学習講座等の実施事業

事業名称	内容	成果
文化財講座	「吾妻町の文化財」 町の史跡 県文化財保護審議会委員 萩原　進　先生 「くらしの歴史」 吾妻の民俗 県文化財保護審議会委員 都丸　十九一　先生 「吾妻の城」 町の城を中心に歴史を 城郭研究家 山崎　一　先生 「吾妻町の文化財」 町の文化財をスライドで 吾妻町文化財専門委員 脇屋　真一　先生 丸山　不二夫　先生	モデル地区指定にともない、理解と尊重の愛護精神を深めてもらおうと4回にわたる文化財学習講座を実施した。特に身近な町の歴史等について講義を進めてきたので、文化財の理解と保護活動の啓蒙に資した。 出席者 第1回　５４名 第2回　４０名 第3回　５９名 第4回　４６名

(2) 指導者講習会等の実施事業

名称	内容	成果
文化財指導者研修会	専門委員の県外研修視察	東京、埼玉方面へ県外研修視察をして、一層の知識を広め、理解を深めて文化財愛護の先達となり、保護活動につとめた。

(3) 学校における文化財学習（副読本、クラブ活動、部活動、学校行事等）

(イ) 副読本

名　　称	内　　容	成　　果
わたしたちの吾妻町	小学校3年生副読本として使用	文化財に対する知識を得るとともに理解をもたせて、正しい町の歴史を知り、文化財愛護保存につとめた。

(ロ) クラブ活動、部活動

名　　称	内　　容	成　　果
太田小学校郷土クラブ	太田地区の石仏調査	太田地区の道祖神を調査し写真入で小冊子にまとめる。 文化財の理解と保護活動に役立つた。
岩島中学校史学研究部	郷土史の研究調査	学校教育における文化財学習の導入につとめた。
坂上中学校郷土研究部	上記に同じ	

(ハ) 学　校　行　事

名　　称	内　　容	成　　果

(ニ) その他の学校教育活動

学　校　名	各教科等	内　　容	成　　果
太　田　小学校	民俗資料室	一教室に農具、光熱用具、家具等、民俗文化財を展示保存	地元の人達の好意により生産、生業、衣食住に用いられた民俗文化財を学校に集め展示し、一般、児童等に公開し文化財学習と保存にも役たてた。
岩島第二小学校	上記に同じ	上記に同じ （特に、この地区特色のある麻農具展示保存した。）	
坂　上　小学校	上記に同じ	上記に同じ	

(4) その他の学習活動

名　　称	内　　容	成　　果
寿　　大　　学	講義「町の歴史について」 史跡めぐり	成人教育の一環として、高令者教室「寿大学」を開設し、町の文化財の理解と保護活動の啓蒙に資した。

名　　称	内　　容	成　　果
婦人指導者研修会	まちの歴史について	理解と愛護の精神を一層深めた。
家庭教育学級	文化財めぐり 史跡をたずねて	町の文化財を理解させるため、現地における学習を文化財めぐりで実施し、理解と愛護活動の啓蒙に資した。

2. 各種団体による実践活動

団体の名称	内　　容	成　　果
大官嚴鼓神社太々神楽保存会	祭典の際に太々神楽を奉納 太々神楽を踊る後継者の育成	青年層に太々神楽を踊る人達が出てきた。（後継者の育成に役だつた）
矢倉鳥頭神社　〃		
三島鳥頭神社熊野社　〃		
菅原神社　〃		
榛名神社　〃		
諏訪神社　〃		
松谷神社　〃		
吉岡神社　〃		
川戸神社　〃		
八幡宮獅子舞保存会	祭典に獅子舞を奉納	獅子舞の保存と後継者の育成につとめた。
四戸の獅子舞　〃	前記に同じ	前記に同じ
道泉谷戸の　〃		
萩生　〃		
松谷神社　〃		
須賀尾　〃		
吉岡神社雅楽保存会	祭典に雅楽を奉納	後継者の育成につとめている。
人形芝居有楽座	一人使いの人形芝居	上記に同じ
吾妻町体育協会	史跡めぐり（歩行大会）	理解と愛護の精神につとめた。
吾妻町連合青年団	郷土芸能発表	太々神楽、人形芝居の発表を通じ、文化財愛護とともに後継者の育成にもつとめた。

3. 文化財愛護団体等の育成事業

団体の名称	事業内容	補助金額等
吾妻町文化財保存会	町内の文化財調査	
獅子舞保存会	祭典の獅子舞と後継者育成	7,000円×6団体
太々神楽 〃	祭典の太々神楽と 〃	7,000円×9団体
雅楽 〃	祭典の雅楽と 〃	7,000円×1団体
人形芝居有楽座	人形芝居公演、後継者育成	7,000円
吾妻町文化を育てる会	歌舞伎公演	

4. 管内の住民一般に対する広報活動等

名称	内容	成果
広報「あがつま」	町広報に国、県、町指定文化財を掲載する。	町広報を活用して、文化財についての理解と啓蒙にあたつた。
吾妻町の文化財	国、県、町指定文化財	文化財についての理解と愛護の精神を一層深め、国、県、町指定文化財の再確認がなされた。
吾妻町の道祖神―双体道祖神―	町の道祖神―双体道祖神―小冊子発行	石仏の保存、保護に一層役だつた。
姉山石組みかまど設明板の設置	県指定史跡「姉山石組みかまど」説明板設置	説明板の設置により保護普及につとめた。
文化財シンボルマークバツチ	文化財シンボルマーク入りバツチ	文化財愛護につとめた。
文化財愛護用ステッカー	文化財シンボルマーク入りステツカー	上記に同じ
文化財講座用テキスト	講座テキスト（町の文化財説明入り）	理解と愛護の精神を一層深めた。
文化財講座用チラシ	講座用チラシ	文化財愛護モデル事業の普及につとめた。
姉山石組みかまどパンフレット	荒廃整備と再調査によるためパンフレット作成	機会あるごとに配布し、再認識をしてもらい、保護と愛護の精神を深めた。

事　業　報　告　書	
1. 事　業　名	文化財講座
2. 事業内容	第1回文化財講座「吾妻町の文化財」（町の史跡） 第2回　〃　「くらしの歴史」（吾妻の民俗） 第3回　〃　「吾妻の城」（町の城を中心に歴史を） 第4回　〃　「吾妻町の文化財」（町の文化財をスライドで） 以上4講座を通じて町の歴史について考え、文化財の理解と保護活動の啓蒙に資するというねらいで開講した。
3. 事業成果	受講者 （第1回54人、第2回40人、第3回59人、第4回46人） 第4回文化財講座「岩宿遺跡の教えるもの」という演題で岩宿遺跡から町の遺跡について考えていこうと相沢先生を予定したが、病気のため中止した。 そのため受講生の中より最後のしめくくりの講座がなく残念の声が大かつた。 しかしながら急きょ町の文化財をスライドでみて勉強をしようと考え、身近かな専門委員を講師に依頼したのでだいぶ好評であつた。 以上、4講座を通じて使用したテキストの中で町の文化財を説明入で紹介したので、受講者の理解と尊重の愛護精神をいつそう深めた。

昭和50年度

吾　妻　町　文　化　財　講　座

場所　吾妻町農業協同組合

第1回　文　化　財　講　座

11月22日 午後2時	「吾妻町の文化財」 ―― 町　の　史　跡 ――	県文化財専門委員 萩　原　進　先生

第2回　文　化　財　講　座　　場所　吾妻町山村開発センター

12月13日 午後2時	「くらしの歴史」 ――吾妻の民俗――	県文化財専門委員 都　丸　十九一　先生

第3回　文　化　財　講　座　　場所　吾妻町山村開発センター

1月24日 午後2時	「吾　妻　の　城」 ―― 町の城を中心に歴史を ――	城郭研究家 山　崎　一　先生

第4回　文　化　財　講　座　　場所　吾妻町山村開発センター

2月21日 午後2時	「岩宿遺跡の教えるもの」 ー岩宿遺跡から町の遺跡について考える-	赤城人類文化研究所長 相　沢　忠　洋　先生

（吾妻町教育委員会）

第2回文化財講座　「くらしの歴史 ―― 吾妻の民俗 ―― 」
講師　都　丸　十九一　先生

第3回文化財講座　「吾妻の城 ―― 町の城を中心に歴史を ―― 」
講師　山　崎　一　先生

第4回文化財講座　「吾妻町の文化財 ―― 町の文化財をスライドで ―― 」
講師　脇　屋　真　一
丸　山　不二夫　先生

第2回　文　化　財　講　座

開催のおしらせ

このことについて、下記のとおり開催しますのでお知らせいたします。

記

1. 日　時　12月13日（土）　午後2時より
2. 場　所　吾妻町山村開発センター（大会議室）
3. 講　演　「くらしの歴史」 ―― 吾妻の民俗 ――
講師　都　丸　十九一　先生

昭和50年12月2日

吾妻町公民館
館長　岡　田　唯　雄

各　位

第3回　文　化　財　講　座
開催のおしらせ

このことについて、下記のとおり開催しますのでお知らせいたします。

記

1. 日　　時　　1月24日（土）　午後2時より
2. 場　　所　　吾妻町山村開発センター（大会議室）
3. 講　　演　　「吾妻の城」
——町の城を中心に歴史を——
講師　山　崎　　一　先生

昭和51年1月17日

吾妻町公民館
館長　岡　田　唯　雄

各　　位

第4回　文化財講座開催のお知らせ

このことについて、下記のとおり開催しますのでお知らせいたします。

記

1. 日　　時　　2月21日（土）　午後2時より
2. 場　　所　　吾妻町山村開発センター（大会議室）
3. 講　　演　　「吾妻町の文化財」
——町の文化財をスライドで——
講師　脇屋真一　先生
丸山不二夫　先生

昭和51年2月18日

吾妻町公民館長

各　　位

追伸　「岩宿遺跡の教えるもの」は、相沢忠洋先生が病気のため延期いたします。

文化財講座開催について

県文化財愛護モデル地区指定にともない、理解と尊重の愛護精神を深めてもらおうと、別紙のとおり文化財講座を開催することになりました。

ついては、ご多忙の折とは存じますがご都合つけてご来聴くださるようご案内申し上げます。

昭和５０年１１月１１日

吾妻町公民館長　岡　田　唯　雄

各　　位

吾公発第１８１号
昭和５０年１１月１１日

区　　長
殿

吾妻町公民館
館長　岡　田　唯　雄

文化財講座開催にともなう要項回覧について（依頼）

このたび、県文化財愛護モデル地区指定にともない理解と尊重の愛護精神を深めてもらおうと、文化財講座を開催することになりました。

ついては、御多忙中恐縮ですが別紙要項を区民に回覧し、多数来聴下さるようよろしくお願い申し上げます。

吾公発第１８１号
昭和５０年１１月１１日

中学校長
県立吾妻高等学校長　殿

吾妻町公民館
館長　岡　田　唯　雄

文化財講座開催要項配布について
（依　頼）

このたび、県文化財愛護モデル地区指定にともない理解と尊重の愛護精神を深めてもらおうと、文化財講座を開催することになりました。

ついては、別紙要項を生徒に周知方よろしくお願いいたします。

目　　次

「吾妻町の文化財」　　文化財愛護モデル地区事業文化財講座テキスト

1. 吾妻町の文化財分布地図
2. 吾妻町の文化財由来等
(1) 吾妻町指定文化財
(2) 群馬県指定文化財
(3) 国指定文化財
3. 文化財講座
第1回　文化財講座ノート
第2回　〃
第3回　〃
第4回　〃
4. （附）　吾妻町太々神楽、獅子舞雅楽の祭の日

（文責　吾妻町文化財専門委員　脇屋真一氏）
〃　丸山不二夫氏）

吾妻町の文化財

町指定

1. 快龍信女墓碑
2. 松谷ささらしし舞い
3. 人形芝居遊楽座
4. 古賀良神社の石宮
5. 長福寺の五輪の塔
6. 吉岡神社の石燈籠と太鼓橋
7. 畔字治神社の石燈籠
8. 岩櫃城跡
9. 金井廃寺遺跡
10. 吉岡神社の句額
11. 大運寺の本尊
12. 岩櫃山鷹の巣遺跡
13. 四戸の古墳群
14. 蔵手の大刀
15. 吉岡神社の薬師像
16. 応永寺の傘松

県指定

17. 木造馬頭観音立像
18. 姉山の石組みかまど
19. 刀(銘於南紀重国造之1口)

国指定

20. 天然記念物原町の大ケヤキ
21. 天然記念物　ちやぼ
22. 名勝吾妻峡

2. 吾妻町の文化財由来等

(1) 吾妻町指定文化財

種　類	史　跡	指定年月日	S40.10.5
名　称	快龍信女墓碑		
所在地	吾妻町大字川戸		
管理者	吾妻町大字原町　小林秀彰		

由来・徴証・伝説

原町浄土宗、善導寺二世、円光上人の母が、榛名の湖水に入水し、化して蛇身となるという。その墓碑に「為広雲快龍信女菩提」とし、明徳5年の年紀があるが、現在のものは、その傍にある供養塔と共に延宝8年4月、善導寺によつて再興されたものである。

種　類	重要(無形)文化財	指定年月日	S47.3.1
名　称	松谷ささらしし舞い		
所在地	吾妻町大字松谷		
管理者	〃　高橋吉		

由来・徴証・伝説

起源は不明であるが古くから松谷神社の奉納獅子として行われていた。永く中断していたこともあつたが、寛政2年に再興されて今日に至るという。御殿獅子と称して座敷で舞うのを原則とし、道中の舞いはない。歌の詞章がある。獅子頭も上作である。

種　類	重要(無形)文化財	指定年月日	S47.3.1
名　称	人形芝居遊楽座		
所在地	吾妻町大字三島		
管理者	〃　小池秀雄		

由来・徴証・伝説

幕末の万延年間、竹本政太夫(6代目)が来村、この地に住んで遊芸を教え、当時の村人達によつて開演されたという。その後中断したが、明治末期に再興され、昭和10年に水害のため道具一式を流失したが、また昭和27年から演じられるようになつた。曲目は壺坂霊験記等多数多いが、人形は素人造りである。

種　　類	重要文化財	指定年月日	S47.3.1
名　　称	古賀良神社の石宮		
所 在 地	吾妻町大字大戸		
管 理 者	〃　　古賀良神社		

由来・徴証・伝説

安永2年に築造された現社殿は吾妻郡内でもその比を見ない壮大な石造建造物である。なお、社伝によれば祭神は八天狗であつたが、天正7年に四阿山から伊弉渚尊、伊弉珊尊を勧請したという。

種　　類	史　　跡	指定年月日	S47.3.1
名　　称	長福寺の五輪の塔		
所 在 地	吾妻町大字岩井		
管 理 者	〃　　長福寺　茂　木　　享		

由来・徴証・伝説

碑銘並びに伝説によれば、吾妻太郎藤原行盛の墓とされ、貞和5年5月25日に里見某と戦つて敗死したという。もとは人家に近いところにあつたが元禄年間に現在地に移転された。

種　　類	重要文化財	指定年月日	S47.3.1
名　　称	吉岡神社の石燈籠と太鼓橋		
所 在 地	吾妻町大字本宿		
管 理 者	〃　　吉　岡　神　社		

由来・徴証・伝説

石燈籠は天保4年3月竣工。石工は信州伊奈郡の池上仙蔵（ほか）。太鼓橋は慶応2年竣工、石工は前橋の宮下政八（ほか）である。
両者共に造形美にすぐれ、美術的価値が高い。

種　　類	重要文化財	指定年月日	S47.3.1
名　　称	畔字治神社の石燈籠		
所 在 地	吾妻町大字大戸		
管 理 者	〃　　畔字治神社　小林陽一		

由来・徴証・伝説

文政9年、加部安左衛門兼重の寄進にかかる。石工は信州伊奈郡手塚曾助ほか数名。すこぶる安定感は富み、優美な名作であるが、一基においては破損が大きいのは残念である。

種　　類	史　　跡	指定年月日	S47.3.1
名　　称	岩櫃城跡		
所 在 地	吾妻町大字原町		
管 理 者	〃　　島村勘次郎		

由来・徴証・伝説

吾妻郡内における最も代表的な中世の城址。戦国時代に斉藤氏数代の居城であつたが後、真田氏の手に落ち、海野幸光、矢沢頼綱、以下幾人かの城代が駐在したが、慶長20年、一国一城令の発布によつて廃城となつたものであろう。

種　　類	史　　跡	指定年月日	S47.3.1
名　　称	金井廃寺遺跡		
所 在 地	吾妻町大字金井		
管 理 者	〃　　金井区長		

由来・徴証・伝説

8世紀のはじめ（？）どろの大きな寺跡。古瓦等の出土品もかなり散逸している。礎石26個も原位置を示すものはないという。文献、伝説は共に無いが、その創建に当つては上毛野坂本朝臣（政事要略巻82に記事あり）の一族が関与しているであろうという説がある。

種　　類	重要文化財	指定年月日	S47.3.1
名　　称	吉岡神社の句額		
所 在 地	吾妻町大字本宿		
管 理 者	〃　　吉　岡　神　社		

由来・徴証・伝説

江戸時代奉納句額五面

1. 文化13年　2. 文化13年　3. 文政4年　4. 天保14年

5. 弘化3年

なお文政4年（願主、葦竹）の句額には村内はもとより一茶、白雄士朗などの全国的俳人が句額に関係している。

種　　類	重要文化財	指定年月日	S47.3.1
名　　称	大運寺の本尊		
所 在 地	吾妻町大字大戸		
管 理 者	〃　　大運寺住職　武　井　敏　雄		

由来・徴証・伝説

恵心僧都御作と伝説のある、一搆手半の金銅仏。鎌倉時代の特徴を示す、鋭い線が何ともいえず美しい。阿弥陀仏とされているが、宝冠を被つているのはきわめてめずらしい。

種　　類	史　　跡	指定年月日	S47.3.1
名　　称	岩櫃山鷹の巣遺跡		
所 在 地	吾妻町大字原町		
管 理 者			

由来・徴証・伝説

昭和3年に瓦形土器2個が出土し、昭和14年、明治大学杉原荘介氏により調査されて更に16個を加えた。弥生式文化中期前半の共同墓地と見られる。この地方の墓制を示す貴重な遺跡である。

種　類	史　跡	指定年月日	S47.3.1
名　称	四戸の古墳群		
所在地	吾妻町大字三島		
管理者	〃　高橋英男		

由来・徴証・伝説

この他の古墳としては20基以上が数えられたが、正確な数は不明。昭和39年・42年にそのうち4基について群馬大学の手で調査された。その4基については尾崎喜左雄氏は使用尺度高麗尺の点から6世紀の末期から7世紀前半にかけての築造であろうとしている。

種　類	重要文化財	指定年月日	S47.3.1
名　称	蕨手の大刀		
所在地	吾妻町大字原町		
管理者	〃　大宮曦鼓神社　神宮　高山弥兵衛		

由来・徴証・伝説

蕨手とは刀剣形式の一つで、刀身と共鉄の柄の先端が蕨に似ている。奈良時代から平安朝初期に用いられたものの如くで、古墳や住居址からの出土例もあるが、ここに指定するものは出土品ではなく、正倉院の遺品などと同様に伝世品である点、特に貴重である。

種　類	重要文化財	指定年月日	S47.3.1
名　称	吉岡神社の薬師像		
所在地	吾妻町大字本宿		
管理者	〃　吉岡神社		

由京　徴証・伝説

往古神仏混合の時代があり、木像の薬師像を安置している。

なお、嘉永4年本宿村加辺半左衛門、加辺半四郎願主の「瑠璃殿」の額がある。

種　類	天然記念物	指定年月日	S47.3.1
名　称	応永寺の傘松		
所在地	吾妻町大字岩下		
管理者	〃　応永寺　住職　古川誠美		

由来・徴証・伝説

寺伝によれば応永寺6世聚易が元和4年に植え、7世聚建が之を傘状に仕立てたという。傘松は宗祖道元の開いた寺の名（傘松峯大仏寺、後に吉祥山永平寺と改めた）に因樹種は5葉松。

(2) 群馬県指定文化財

種　類	史　跡	指定年月日	S33.3.22
名　称	姉山の石組みかまど		
所在地	吾妻町大字岩下　（地主　岩下　片貝亀祿		
管理者	吾妻町		

由来・徴証・伝説

昭和32年、リンゴの木を植えるために穴を堀った際に発見。石を組んで焚口から戸外まで煙を誘導するように作り、すきまは粘土で塞いだもののようである。土師式土器が出土している。その後風化がはげしいので昭和49年に土中に埋蔵した。その際の再調査により、住居址の一部も発見された。

種　類	重要文化財	指定年月日	S37.2.21
名　称	刀銘於南紀重国造之		
所在地	吾妻町大字小泉		
管理者	〃　植木正心		

由来・徴証・伝説

重国の銘は数代あるが、初代は慶長元和頃の人で新刀中の名工と称せられる。もと大和の産で、手掻包永の流を汲む。元和5年紀州徳川家の抱鍛治となって和歌山に定住した。特に相州物の古刀を模しては新刀鍛治中随一といわれている。

種　　類	重要文化財	指定年月日	S50.9.5
名　　称	木造馬頭観音立像		
所 在 地	吾妻町大字矢倉		
管 理 者	〃　　渡　　軍　　平		

由来・徴証・伝説

等身三面六臂忿怒相の木像。材はヒノキか。寄木造りで、製作年代は鎌倉時代とされている。大永7年に中之条海蔵寺で観音堂の開眼供養が行われた記録がある。その後、現在の地に移され、海野長門守、富沢但馬守、渡右馬助らの有力者のの尊崇を受けてきた。

(3) 国指定文化財

種　　類	天然記念物	指定年月日	S8.4.13
名　　称	原町の大ケヤキ		
所 在 地	吾妻町大字原町		
管 理 者	吾妻町		

由来・徴証・伝説

古来ツキノキと称せられ、原町の象徴とされた名木。元和年間、真田家の臣、出浦対馬守幸久がこの地方に町を引移した際、この木を艮（鬼門）の方角に宛てて鬼門除けに利用して町割を設計したという。

種　　類	天然記念物	指定年月日	S16.8.1
名　　称	ちゃぼ		
所 在 地	吾妻町大字矢倉　（矢倉　渡　秀　雄）		
管 理 者	吾妻町		

由来・徴証・伝説

チャボの名で呼ばれる雞はその品種が多いが、ここに指定するものは羽色黒色の小軍雞（コシヤモ。一名南京チャボ）である。体形はシャモをそのまま縮少した感がある。闘争を好む。近親繁殖を繰り返す為、増殖はむずかしく、衰滅の一途をたどっている。

種　類	名　勝	指定年月日	S10.12.14
名　称	吾　妻　峡		
所 在 地	吾妻町大字松谷		
管 理 者	農林省、群馬県		

由来・徴証・伝説

吾妻川の両岸は石英粗面岩、安山岩、集魂岩等から成り、これを河水が深く侵食して絶景となっている。志賀重昂は絶讃して耶馬溪以上だと言ったという。若山牧水の「みなかみ紀行」にも絶讃の文が連ねられ、また幾つかの作歌も残している。

4. 吾妻町太々神楽、獅子舞雅楽の祭の日

(1) 太々神楽の祭の日

部落、神社名	祭　の　日
上　の　宮	4月24日、10月　9日
大　　宮	5月　5日、　9月　9日
榛　　名	4月20日、11月　9日
矢倉鳥頭	4月19日、11月　9日
三　島　〃	4月25日、11月　3日
菅　　原	2月25日、　5月　3日、11月25日
松　　谷	1月14日、　3月15日、11月23日
吉　　岡	4月　8日、11月　8日
須賀尾	4月27日、11月27日

(2) 獅子舞の祭の日

泉　　沢	4月15日、　9月15日
四　　戸	11月3日
松　　谷	1月14日、　3月15日、11月23日
萩　　生	4月15日、11月24日
道泉谷戸	1月14日
須賀尾	1月14日
畔宇治	

(3) 雅楽の祭の日

吉　　岡	4月　8日、11月　8日

荒廃整備と再調査による新知見

県指定史跡

姉山石組みかまど

（管理者　吾妻町）

所　　在　吾妻郡吾妻町岩下字姉山１５０１番地

地　　主　同　　所　　片貝亀祿氏

昭和３３年３月２２日　県指定史跡

1.　遺跡の立地と環境

本遺跡は国鉄吾妻線岩島駅北方５００メートルの吾妻川左岸段丘上に位置する古墳時代末期の竪穴住居跡に付随する石組みかまどである。特にその長大さと精巧さにより県指定史跡として著名である。

遺跡は吾妻川が形成する三段の段丘最上段に位置し、背後はすぐ傾斜変換線で山容を峻しくしながら吾嬬山（１,１８１ｍ）に連なる南面台地上にある。前面は中段段丘上まで部落が展開し、最下段は狭小な水田が開けている。そのため、本遺跡からの景観はすこぶるよく、標高は５４０メートルを算し駅のある段丘面との比高は７０メートルである。

吾妻川左岸は古くから開けていたとみられ、特に東南３キロメートルほどの温川との合流点を中心に縄文、古墳を主とする遺跡がみられ、山地の岩陰には弥生遺跡も認められている。それらの内、主なものを表示すると左表の如くである。

遺　跡　名	所　　在	種類	時　期	本遺跡との直線距離	備　　考
机　古　墳	吾妻町岩下大字机	古墳	６世紀中	東南東 ７００ｍ	竪穴式系箱式棺状内部主体をもつ円墳
四戸古墳群	吾妻町三島字四戸	古墳	７世紀中	南東３Ｋｍ	上毛古墳綜覧には２４基ある群集墳、昭３９群大史学研究室調査横穴式石室、刀、鏃、玉類等出土
郷原遺跡	吾妻町郷原	縄文	後　期	東南東 4.2 Km	ハート型土偶 国指定重要文化財
鷹の巣遺跡	吾妻町岩櫃山	弥生	中　期	東南東 ３Km	洞窟内の再葬墓とみられる。人骨と共に１８個の土器が出土した。
善導寺遺跡	吾妻町原町	弥生	後　期	東５Km	樽式土器 壺３個出土

2. 整備のための再調査と新知見

昭和３２年、地主が果樹を植えるために掘った穴の底に石組みと多量の焼土を発見したことが端緒となり山崎義雄氏（故人）（県文化財専門委員）が発掘調査し、検出された石組みかまどは３３年県指定史跡となり、覆屋がかけられて保存されてきた。しかし、十数年の歳月が経過し、土砂の流入と風化により遺構は全く旧状を止めないまでに荒廃してしまった。特に石組みの煙道部蓋石はほとんどなくなって、このままでは遺構の壊滅も憂慮されるに至った。そこで吾妻町教育委員会と県教育委員会の協議により、一旦、遺構を整備し、記録し、埋めもどして保存することも心むなしとの結論に達し、昭和４９年１１月、その作業が実施された。その結果得られた知見を山崎氏の調査と合せて整理したものが以下述べるもので、新知見も含めて記すものである。

(1) 遺　構

前回の調査で確認されたのは、石組みかまどのみで「地表から底部迄殆んど変化のない黒色土（パサパサした感じのもの）で壁の限界は全く不明」（「姉山石組みかまど調査報告」）であった。かまどは全長1.５６メートル、竈底の勾配は約２２度、煙道先端部に12センチ四方の方形煙出孔を有していたという。また２石めの石の内側に２０センチほどの高さの支柱状の石を立てていた。かまどに使用された石材は安山岩の平石と角礫で間隙に粘土を間詰めしていたという。

今回の整備による再調査では住居床面が明瞭に把握でき、壁と石組みかまどの関係も判然とした。即ち、住居の主軸は北－６度－東でロームブロックと焼土、炭化物を含んだ床面はあまり堅くはないが踏み固められて整い、かまど右側５０センチのところに長径３８センチ、短径２６センチの方形の掘型をもち、深さ４５センチの貯蔵穴、その南３５センチほどの位置に径３０センチ、深さ４０センチの柱穴が発見された。また囲いの西端にかかって後窄のピットが発見された。壁の立ち上がりは前回かなり表面を削ったとみられるが現状で２０センチ内外であった。

かまどは左右対称に石の大きさを合わせ、両側に各７石を配し、先端の石は上部は割れ落ちていたが立っていた。前回調査の煙出し孔に対する配慮であろう。石は大で径３６センチ、小で２１センチと区々であるが、焚口部の２石が小さい。２石めの側石の内側に２石が柱状に立ち前回支柱とみられた石であることが明らかとなった。

この構造からみると、焚口２石めまでは天井石を被せなかったとみられ、第３石めの部分に飲炊用土器をかけ、その先四石めからが煙道であったものとみられる。前回調査の際既に天井石が抜かれていたとされたが、むしろ、当初から欠いていたとみるべきであろう。支柱石とされたものについても固定され方が弱く、支柱とみるよりは炎をかまど内にまんべんなく拡散するための分焔柱的な機能を有したものとみる方がよいのではないだろうか。かまど底面の傾斜も第４石めから急勾配で上ること底面の焼け方も１石めの部分が特に強

く焼けていることからも裏付けられよう。

遺物は土師器杯が貯蔵穴中から、他にかまど左脇に土師片、須恵片がわずかに認められたにすぎなかった。また、前回の調査ではかまど周辺のみに注意がはらわれたものとみられ、住居内かまど前面は石の配列に沿って１５センチ程掘りこまれていた。部分的に掘ったために床面を見失ったためであろう。

部分名		規模 (m)	勾配
全長		1.75	平均１８度
焚口部幅		0.35	１８度
燃焼部	長	0.75	分焔柱奥３度
	幅	0.42	
煙道部	長	1.00	煙道部前方２４度
	幅	0.27～0.20	同　後方１０度

(2) 遺　物

・長　口縁部（図１）

推定口径２１センチ、長胴の器体部に不明瞭な稜をもって外反する口縁部をもつ。体部はヘラ削りで整え、口縁部は水びきされる。胎土に砂を含むが焼成は良好である。黒褐色

・瓶（図２）

口径１６７センチ、長胴の器体部下半部を欠くが、下端のすぼまり傾向からみて瓶と推定される。口縁部は体部から短かく外反する。体部は輪積み痕が内外面とも明瞭であるが表面は手持ち不定方向ヘラ削りで整えている。また、器体部下端と前記長甕は内径がほぼ合致し、セットになる炊飯具とみられる。赤褐色

・壺型土器（図３）

口径１２センチ、長胴化傾向をみせる球形器体部にわずかに外反する短かく立つ口縁部を付す。頸部のくびれも弱いが胎土は夾雑物を含まず良好、焼成は甘く黄褐色を呈す。つくりは全体に雑である。

・杯（図５）

推定口径１１.５センチ、器高4.1センチ、浅い体部から稜をわずかに残して外反する口縁部をもつ。胎土は夾雑物を含まず良好であるが、焼成はやや甘い。赤褐色を呈し、つくりは良好である。

・甕破片（図４）

破片で推定したもので扁円の器体部に短かく外反する口縁をもつ。１１.６センチの推定口径で頸部のしまりもつよくない。器表はかなり荒れている。褐色

・須恵器片（写真６）

青海波文を内面にもつ大甕で表面には平行叩目文が付く。灰色を呈し、焼成は堅緻で大甕であろう。他に白色の須恵小片もある。（未完）

注①昭和３９、４０年度における発掘調査、群大、尾崎研究室調査報告第三輯

②注①に同じ

③「先史遺跡考」山崎義男著、（みやま文庫）

④考古学集刊　十巻十号、杉原荘介

⑤姉山石組みかまど調査報告　山崎義男

⑥杯の形稜線の退化、長かめの薄手化と口縁部の水平化、器面のヘラ削り技法などからみて南関東編年における鬼高期末期のものとしてとらえられる。

３　ま　と　め

遺構と遺物についてみてきたが、この所見からすると姉山石組みかまどの時期は古墳時代末期のものとすることができる。即ち、四戸古墳群の時期に継続する時期のものとして７世紀末に比定することが妥当と考えられる。

この種の遺構は近年その例を増加しつつあるが、吾妻郡中之条町宝満寺遺跡、吾妻町川戸遺跡、草津町井堀遺跡、六合村熊倉遺跡等を挙げうるが、その分布は吾妻郡に濃く、県下全体の分布からみると利根川右岸に集中する。更に５０年６月には本遺跡のすぐ南方向５００メートルの地点で同様な遺跡を耕作中発見した。これからみるとこの周辺には同種の遺構が多くあるものと推定される。

今後、時期の前後関係同種遺跡の分布範囲の確認等を通して地域ひろがり、文化圏の検討をする必要があろう。

（文責群馬県教育委員会事務局文化財保護課　井上唯雄氏）

発行者　吾妻町教育委員会
群馬県吾妻郡吾妻町大字原町５９４
TEL（027968）2111（代）

（別紙　2）

事　業　報　告　書	
1. 事　業　名	指定文化財の説明板設置
2. 事業内容	文化財保護、普及のため、その所在地に明確な説明板を設置する。
3. 事業成果	県指定史跡「姉山石組みかまど」の設明板設置

事　業　報　告　書	
1. 事　業　名	「姉山石組みかまど」パンフレット作成
2. 事業内容	石組みかまどの荒廃整備と再調査による新知見のためパンフレット作成
3. 事業成果	「姉山石組みかまど」パンフレット作成配布 1. 文化財講座の受講者に配布 2.文化財用務で機会あるごとに配布 3.見学者へパンフレットを配布 以上荒廃整備と再調査によるため再認識をしてもらおうとパンフレットを配布した。 そのため文化財保護と愛護の精神を広めた。

事　業　報　告　書	
1. 事　業　名	文化財保護の広報活動
2. 事業内容	町広報（広報あがつま）の活用 （啓蒙と愛護の精神を養う）
3. 事業成果	「広報あがつま」を活用し、文化財についての理解と保護活動の啓蒙につとめた。 （町、県、国指定文化財を広報に掲載して啓蒙と愛護の精神を養った。

広報「あがつま」　昭和５０年１２月２０日　第１８２号

町指定史跡

快龍信女墓碑（川戸）

原町浄土宗善導寺二世円光上人の母が榛名の湖水に入水し、化して蛇身となったという。その墓碑に「為広雲快龍信女菩提」と刻し、明徳５年の年紀があるが、現在のものは、その傍にある供養塔と共に延宝８年４月善導寺によって再興されたものである。

町　指　定

松谷ささらしし舞い　（松谷）

起源は不明であるが古くから松谷神社の奉納獅子と称して座敷で舞うのを原則とし、道中の舞いはない。歌の詞章がある。獅子頭も上作である。

町　指　定

人形芝居遊楽座（三島）

幕末の万延年間、竹本政太夫（６代目）が来村、この地に住んで遊芸を教え、当時の村人達によって関演されたという。その後中断したが、明治末期に再興され、昭和１０年に水害のため道具一式を流失したが、また昭和２７年から演じられるようになった。曲目は壺坂霊験記等数多いが、人形は素人造りである。

町　指　定

蕨手の大刀　（原町）

蕨手とは刀剣形式の一つで、刀身と共鉄の柄の先端が蕨に似ている。奈良時代から平安朝初期に用いられたものの如くで、古墳や住居址からの出土例もあるが、ここに指定するものは出土品ではなく、正倉院の遺品などと同様に伝世品である点、特に貴重である。

（別紙　2）

事　業　報　告　書	
1. 事　業　名	「吾妻町の文化財」パンフレット
2. 事業内容	町の文化財の資料集
3. 事業成果	５０・５１年度の、２年次計画のため資料、写真等の収集中

事　業　報　告　書	
1. 事　業　名	「吾妻町の道祖神」刊行
2. 事業内容	道祖神の本発行により文化財の保護、愛護精神を養う。
3. 事業成果	町内にある道祖神１２４体の調査、資料収集し、その成果として出版した。 （文化財の保護とともに愛護の精神を一層深めたと思う。）

事　業　報　告　書	
1. 事　業　名	獅子舞、太々神楽、雅楽、人形芝居の発表
2. 事業内容	各保存会ごとに発表（各保存会へ育成補助金を支出する。）
3. 事業成果	保存、保護、育成につとめた。

事　業　報　告　書	
1. 事　業　名	婦人指導者研修会
2. 事業内容	「まちの歴史」について
3. 事業成果	７０名参加のもとに開催された。 「まちの歴史」について講義を聞き、理解と愛護の精神を深めた。

昭和５０年度

吾妻町婦人指導者研修会

とき　昭和５１年３月２３日
ところ　吾妻町山村開発センター

吾妻町教育委員会
吾妻町婦人会連絡協議会
吾妻町選挙管理委員会

日程表

時間	日程
９：３０～１０：００	受付
１０：００～１０：２０	開会式
１０：２０～１１：２０	講義「ものの見方、考え方」 講師　角田和平　先生
１１：２０～１２：００	講義「まちの歴史」 講師　脇屋真一　先生
１２：００～　１：００	昼食　休けい
１：００～　２：３０	講演「婦人と余暇」 講師　磯貝三郎　先生
２：３０～　２：４０	休けい
２：４０～　２：５０	公職選挙法について
２：５０～　３：２０	映画「ある主婦達の記録」
３：２０～　３：３０	閉会式

昭和５０年度吾妻町婦人指導者研修会

1. 趣　　旨　急激に変動する社会に対応する婦人の役割と地域婦人会の活動の方向を発見すると共に、町内婦人会相互の親睦を深め、婦人による地域づくりの一助とする。

2. 主　　催　吾妻町教育委員会
　　吾妻町婦人会連絡協議会
　　吾妻町選挙管理委員会

3. 期　　日　昭和５１年３月２３日（火）

4. 会　　場　吾妻町山村開発センター　大会議室

5. 参加者　町内婦人会のリーダーおよび活動家
　　（原町　２０人、　太田　１５人、　岩島　２０人、　坂上　１５人）

6. 講師および助言者
　　講　演　「婦人と余暇」
　　元群馬県青少年室長　磯貝三郎　先生
　　講　議　「ものの見方、考え方」
　　吾妻教育事務所社会教育課補佐社教主事
　　角田和平　先生
　　講　議　「まちの歴史」
　　吾妻町文化財専門委員　脇屋真一　先生

7. 参加申込み　３月１５日までに別紙申込み書により単位婦人会ごとに取りまとめて教育委員会事務局へ申込んで下さい。

（別紙　2）

事　業　報　告　書	
1. 事　業　名	青年団芸能発表大会
2. 事業内容	郷土芸能の発表
3. 事業成果	町内にある太々神楽、人形芝居等の発表。 その中で人形芝居は一人使いの人形で三島の遊楽座の一座の方々に手ほどきを受け発表の段階に至った。 郡県の芸能発表にも参加する。 その間、青年団員約２０名が２ケ月にわたり、毎夜練習を重ね発表した。今後もやっていきたいという熱意があり、文化財の保護とともに後継者の育成につとめてきた。

事　業　報　告　書	
1. 事　業　名	太田地区道祖神調査
2. 事業内容	道祖神調査により、文化財の保護、愛護の精神を養う。
3. 事業成果	太田地区にある道祖神２９体の調査をし、その成果として一冊にまとめた。 これは小学校５、６年生郷土クラブが中心となり調査し、埋もれた文化財を理解させるとともに保護と愛護に役だてた。 これが発端となり太田地区の父兄が興味をもち史跡めぐりを数回実施してきた。

毎日新聞　　Ｓ５１．２．１６

「道祖神集録を作ろう」

吾妻太田小　６年生が卒業記念に

吾妻郡吾妻町立太田小（木暮仁一校長）は、高学年の特別教育活動（クラブ活動）の一環として郷土の古い習慣や遺物を守ろうと"郷土クラブ"を設けた。この一年間地域の道祖神を回り大きさ、形などを集録、卒業生はこの道祖神集録を卒業記念作品として一冊のカード集を作ることになった。

郷土クラブは、木暮校長のアイデアで昨年３月に設けられた。金沢和枝教諭が主任となりメンバーは１３人。クラブ活動は平均月２回。クラブ員たちが老人などから聞いて

作った道祖神分布図を基礎に、地域をかけ回り道祖神の形、大きさ、特徴などを記録。木暮校長が写真を撮影して回った。

片道６キロもある山の中まで調べるのに生徒たちは冬休み中も調査を続け、そのかいあってようやく地域内にある２４個の道祖神全部の調査が終了した。

これらの記録にそって全員で「吾妻町太田地区道祖神カード集」（仮称）を作ることになり、６年生は卒業記念品にすることになった。同校長は「郷土の歴史を知り、文化遺産を後世に伝えるいい機会だった。生徒たちにとってこのうえない卒業記念品になりそう」と目を細めている。

事業報告書	
1. 事業名	太田幼家庭教育学級
2. 事業内容	幼児の保護者が対象 史跡をたずねて
3. 事業成果	町外の史跡から、町の史跡について考え理解と愛護、保護について勉強をした。

事業報告書	
1. 事業名	体力づくり歩行大会
2. 事業内容	町内の史跡を理解させるとともに体力づくりの一環の中で保護の啓蒙活用をはかる。
3. 事業成果	町内の史跡を文化財めぐりの形で歩き、埋もれた文化財を理解させるため、現地における学習を歩行大会の形で実施した。

体力づくり歩行大会

日　時　昭和５０年１０月２６日（日）

方　面　太田地区

旧太田村

発　足　明治２２年

村名のおこり　倭名類聚抄に吾妻三郷（太田、長田、伊参）

大　字　岩井、植栗、小泉、泉沢

発展的解消　昭和３０年に町村合併、太田村、原町、岩島村、坂上

見学場所

1. 古　　墳　（すわ山古墳）　昭和１０年現在旧太田村　３６基　横穴式古墳（石室）

2. 田長観音----植　栗

吾妻３３番札所の第１番

芭蕉の句碑　文化７年（１８１０）の建立　〃年々や　桜をこやす　花の塵〃　　植栗三桜の一つ、骨だけ残っているという形であるが美しい花をさかせる。

3. 背高地蔵----岩　井

徳川の中世　正徳５年（１７１５年）田中入兵衛とその一家が中心になり建立。

地蔵の高さは、台が５尺２寸（約１７２cm）御尊像が８尺２寸（約２７１cm）さすがに背の高い地蔵さんである。

道しるべ　右　江　戸
　　左　ぜんこう　道

4. 金井廃寺址----金　井　一の宮神社の西南接壌地の畑中にある。

礎石（そせき）、八単弁の軒丸、平　など出土している。

5. 一の宮神社----金　井　社伝…抜鉾大明神の御分霊を勧請

算　額　高橋作之（東倭の門人）（明治５年発見）

和算　吾妻に和算をひろめたのは沢渡の剣持予山と三島の丸橋東倭（1,783年生れ）である。

6. 長　福　寺----岩　井　真言宗　元禄４年（1,693年）現在地に移転という。

五輪の塔　㊀　岩櫃城主　吾妻太郎藤原行盛の墓　貞和５年（1,348年）　観音堂

7. 鹿　島　宮----植　栗　元慶２年（８７８年）の創建にして郡内屈指のきゅう社である。本社は春日造銅瓦葺、間口４尺５寸、奥行４尺７寸、拝殿は茅葺 權 現道、間口３尺３寸、奥行２間。

際　日　４月１５日、９月１５日

8. 植栗城址----植　栗

学校の北側、吾妻川の端、殿前という所にあった。

現在　植栗安芸守（あきのかみ）と記せる句碑がある。

事業報告書	
1. 事業名	岩島第2小学校 文化財資料室の開放
2. 事業内容	文化財資料室の開放により理解と愛護の精神を養う。
3. 事業成果	理解と愛護の精神を養い文化財保護につとめた。

事業報告書	
1. 事業名	寿大学
2. 事業内容	町内の史跡めぐり（史跡、文化財の所在地での学習）
3. 事業成果	町内の指定文化財等を理解させるため、現地における学習を史跡めぐりの形で実施。
1. 事業名	寿大学
2. 事業内容	町の歴史について
3. 事業成果	町の歴史について知り、文化財の理解と保護活動の啓蒙につとめた。

昭和５０年度

寿大学生募集

吾妻町公民館

吾妻町高齢者教室〃寿大学〃がはじまります。町中のみなさんと、楽しく語り合ったり、研修できますよいチャンスです。受講希望の方は、期日までに申し込んで下さい。

参加申し込みなされた方は、１０回の受講なされることを原則とします。

記

対象　吾妻町全域　６５才以上の方
開設場所　山村開発センター
開設期間　昭和５０年７月１８日～１１月２５日（１０回）
受講料　無料
学習計画　下の表の通り
　但し講師などの都合により変更する場合もあります。
申し込み期日　６月末日

回	月　日	学習課題	時間	方法	講師並びに助言予定者
1	7月18日	開講式 老人と健康	1 2	式 講義	町長、議長、教育長、社会教育指導員、消費生活センター相談員 岸　園子　先生
2	7月29日	趣味と娯楽	3	クラブ学習 話し合い	
3	8月12日	家庭の中の老人の役割	1 2	映画 講義	全国婦人民生部会長 近藤やゑ先生
4	8月26日	リクリエーション	3	実技	吾妻養護老人ホーム生活指導員 塚田元二先生
5	9月　9日	老人と食生活	3	講義	テレビドクター 近藤宏二先生
6	9月30日	町の歴史	2 1	講義 話し合い	吾妻町文化財専門委員 丸山不二夫先生
7	10月　7日	町内めぐり	6	史跡見学	吾妻町文化財専門委員 脇屋真一先生
8	10月21日	趣味と娯楽	3	クラブ学習 実習	
9	11月　4日	芸能鑑賞	6	見学 鑑賞	麻引き節保存会、外丸静子先生他 公民館運営審議委員長水出弘二先生
10	11月25日	高齢者のしあわせ 閉講式	2 1	講義 式	前群馬県社会教育課長 戸所文太郎先生 町長、議長、教育長、社会教育指導員

キ……リ……ト……リ……セ……ン

昭和50年度高齢者教室〃寿大学〃参加申込書			
フリガナ 氏名	(印)	生年月日 明大　年　月　日	性別 男　女
住所	吾妻町大字　字　番地	TEL　有線	
希望するクラブ活動 盆栽　絵画　造花　その他（　　） 希望のクラブに○印をつけて下さい。			

事　業　報　告　書	
1. 事　業　名	寿　大　学
2. 事 業 内 容	郷土の芸能鑑賞
3. 事 業 成 果	麻挽き節保存会による麻挽き節弓おどりの鑑賞 文化財の理解と保護活動の啓蒙につとめた。さらに保存会の育成と保存にもつとめた。

昭和５１，５２年度
「文化財愛護モデル地区」活動

群馬町

1. 文化財学習活動

(1) 文化財学習講座等の実施事業

事業名	内容	成果
町民ハイキング	町内の文化財を町民一般対象にあるいて見学学習する。町体協と共催で実施	身近かな文化財を知る事によって、文化財に対する感心が高まり、文化財愛護の精神もでて来たのではないかと思う。
町民文化財講座	町民教養講座の一部として実施。町にある文化財を例に専門的に学習した。 講師　近藤義雄	やや専門的すぎた為に理解ができたかどうか。 講義形式でなく人数をしぼって気軽るに質問できる様にすればよかった。しかし町にある文化財の素晴しさを少しでも知ってもらったのではないかと思う。
婦人学級	婦人学級の中に文化財に関する学習を組み実施。 講義「家にある民具について」 見学「西毛地区の文化財めぐり」	マンネリ化した学習の中に新しいものを取り入れられたのではないかと思う。
高分者教室	講義「古墳の存在について」 見学「東方世良田の文化財めぐり」	一般の学級、講座の中で一番文化財学習を組み入れやすく熱心に学習する。

(2) 学校における文化財学習

名称	内容	成果
国附小郷土クラブ	町の文化財を学校のクラブとして研究調査する	児童の中に文化財愛護の精神がでて来た様な気がする。

3. 文化財愛護団体等の育成事業

名　　称	事　業　内　容	補　助　金　額　等
保渡田獅子舞保存会	年2回公開と後継者育成の為週に何日か練習を行う。	5万円
金　古神楽保存会	座を形成し、新座員を応募して後継者を育成している。	3万円

4. 管内の住民一般に対する広報活動

名　　称	内　　容	成　　果
町文化財パンフレット	町内の重要な文化財をパンフレットとしてまとめ、それを配付することによって文化財を町民にしってもらう。	町民ハイキング等の学習活動にテキストとして使用し町民に身近な文化財を知ってもらううえに成果があったと思う。

事　業　報　告　書

1. 事　業　名　　文化財めぐり及び文化財講座
2. 事　業　内　容　　○町の主要文化財を講師の案内によって歩いてめぐった。
   対象は一般住民
   ○町民全体を対象に前橋市立図書館長を講師にむかえ「町の文化財」と題して講演会を実施した。
   ○高令者、婦人対象文化財講座の中でそれぞれ3回づつ文化財講座を実施した。
3. 事業の成果　　○今まで注意してみなかった身近な文化財をあらためて見ることによって文化財に対する一般住民の認識と理解が深まった。
   ○やや専門的な文化財の講演を聞くことによって文化財に対する興味と感心する心がわいて文化財愛護の高揚につながったと思う。
   ○老人層、婦人層に文化財愛護の認識を深める効果があった。

1. 事　業　名　　文化財8㎜映画の作成
2. 事　業　内　容　　町の無形文化財を8㎜に収録し編集して約20分の映画を作った。
   収録内容　　保渡田諏訪神社獅子舞
   中里火渡り
   金古諏訪神社神楽
   金古祭太鼓

3. 事　業　成　果　　後継者育成のむずかしい無形文化財を記録保存することによって、その素晴しさを一般町民に知ってもらい、保存会等の役員に後継者育成に対する意欲をもたせることができた。又文化財記録保存の貴重な資料となった。

1. 事　　業　　名　　文化財パンフレットの作成
2. 事　業　内　容　　国指定重要文化財「上野国保渡田薬師塚古墳出土品」というパンフレットを作成、町役職員を始め文化財関係者に配布した。
3. 事　業　成　果　　今まであったパンフレットの増刷をして関係者に配布した訳けであるが、文化財愛護モデル地区をバックに配布しただけに、今まで以上にこの重要な文化財を大切にする機運が盛りあがってきた。

国指定重要文化財

上野国保渡田薬師塚古墳出土品

所　在　地　　群馬県群馬郡群馬町大字保渡田
　　西　光　寺

指定年月日　　昭和１４年９月８日

解説　群馬町の西部から箕郷町におよぶ地域は、５世紀末から７世紀にかけてつくられた大古墳群地帯である。中でも井出―― 保渡田にかけて二子塚、八幡塚、薬師塚の三大前方後円墳はいずれも６世紀につくられたと思われる竪穴式古墳で、八幡塚、二子塚は、ともに昭和の初めに学術的な発掘調査もおこなわれ、すでにその報告書も出されている。薬師塚古墳は１６８３（天和３）年に発掘され、多くの銅製馬具類を出土したが、詳細な調査報告書等は未だ公刊されていない。明治１０年頃編纂された「保渡田村誌」によると

薬師塚　村ノ東方ニアリ、東西三拾八間、南北二拾間、高壱丈三尺、其形雙子山ニ類似ス頽上平坦ニシテ薬師堂アリ、傍ラニ又石棺アリ、煉石アリ、長凡九尺、幅三尺五寸、高五尺許リ、前時塚上ハ村民ノ墓地タリ、天和三年村民此ニ埋葬セントシテ穴ヲ穿ツ、一ノ軟石アリ、鍬ヲ以テ之ヲ鑿ツ、勿チ石枠ケテ人竇中ニ陥ル、稍クニシテ出レハ両脚悉ク朱赤ニ染ム、頗ル奇怪トス、一老曰ク、是レ所謂陵墓ナリト、挺ヲ以テ之ヲ探ルニ蹌然響アリ、又古器数品ヲ得タリ、中ニ銅像アリ、村人コレヲ薬師ト称シ、石棺ノ側ラニ一宇ヲ建立ス、千今其器物存セリ、何人ノ墓タルヤ未詳、伝云阿保親王ノ墓ナリト、然レドモ証トスルモノナシ、記シテ後考ヲ俟ツ。

以上のような記録から発掘状況を知り得ることができるが、銅像については疑問で

ある。この古墳成立年代を６世紀中頃とみると、日本の仏教伝来の歴史を半世紀は逆らなければならないことになり、現在も該仏像は西光寺に保存されているが飛鳥時代以前の作ではない。したがって、後世この墳丘上に祠堂など建てられたものがまぎれて発見されたもので、石棺内のものではなかろう。以下出土品について記すと下のとおりである。

舟型石棺

凝灰岩製　蓋部は割れて三石になっている。蓋、身ともに元来一石を各々刳抜いたもので、印籠形に切組まれ、身部には６個の縄掛けがあり、古代の双手槨の形を思わせる。全長2.7ｍ、巾１ｍ余。

馬　具

白銅製で鍍金のあともみられ、鈴を多くつけ、例少い鋳抜き製品である。主なものは、鈴付杏葉（二種類）、鈴付轡鏡板、馬鐸十字金具で、特にＳ字形鈴付轡鏡板は、北方民族系のものという説もある。その概略を記すと次のとおりである。

轡鏡板

二組あり、一対は２７×１６.３、２９.７×１６.３鋳銅製のＳ字形で周縁に添って飾鋲風の珠文帯を鋳表わし、引手の貫く孔の周縁も同様縁取り、中央に一条の突帯を鋳出し、周縁に９箇所同時鋳成の鈴を付している。

他の一対は片方しか現存せず、辻金具の一方をＳ字形に作ったもので8.４５×９.０２のものである。

杏　葉

大鈴飾付一枚２４.２×１４.４　鋸頭杏葉２枚２４.２×９.０２、三葉形７枚がある。何れも銅製鋳抜きの鈴がついている。馬の尻繋などに飾られたものであり、鈴までが同時に鋳られたものとして全国的に数少ない名品である。

花弁形金具

二枚あり１２.１×８.５　鋳銅板で周縁に飾鋲風の珠文１５箇をめぐらし、中央に半球状の膨らみを鋳出している。

十字金具

鋳銅製で９.６×３.１、中央部に半球状の膨らみを作り、四出した脚の裏面にはそれぞれ小孔があり、装着用の長方形の造り出しがある。

鏡

小型な銅鏡一面　三角縁神状鏡で、大陸製のものである。

玉　類

瑪瑙勾玉３、瑠璃勾玉２、碧玉管玉３６０、瑠璃丸玉３。玉類が竪穴式古墳から出土する例は少く、初期横穴式古墳から多く出土している。この古墳が竪穴式古墳末期のものであることを物語る。

保存管理

永い間、矢島珍一郎式により保存管理されていたが、昭和４２年３月３１日防災用保存庫が４０万円で完成（国庫補助２０万円県費補助６万円、町費１４万円）、ついで同年１０月３１日に修理完成、総修理費６２万円（国庫補助４３万８千円、県費補助５万７千円、町費１３万円）で東京国立博物館仏像修理室において加藤義行氏によりおこなわれ、座板をつけて保存箱に納められた。保存庫は、大きな金庫式になっていて、西光寺本堂内に施設され、火災、盗難の予防だけでなく、半永久的な保存がこうじられ、現在群馬町教育委員会がその管理指導にあたっている。

昭和５０年度
「文化財愛護モデル地区」活動

水上町

1. 文化財学習活動

(1) 文化財学習講座等の実施事業

事業名称	内　　容	成　　果
文化財研修会	文化財の重要性について	文化財全般にわたり重要性を学び認識を深める。
文化財学習会	古文　の読み方	記録を後世のために残すことがいかに大切かを知る。
〃	利根の俗信について	忘れて行く諸行事を再認識する。
〃	民俗資料について	民俗資料の重要性について知る。
〃	民具について	人間生活の推移を知る重要なものであることを知る。
〃	子どもと自然	昔の子どもたちの遊びについて認識を深める。

(2) 指導者講習会等の実施事業

名　　称	内　　容	成　　果
文化財指導者研修会	新種ユビソヤナギについて	水上町ではじめて発見されたものであるので、このヤナギについて知識を深める。

(3) 学校における文化財学習（副読本　クラブ活動、部活動、学校行事等）

(イ) 副読本

名　　称	内　　容	成　　果
社会科副読本	町内の代表的文化財をとり入れてある	小学校３年生の社会科で使用効果をあげている。

(ロ) クラブ活動、部活動

名　称	内　容	成　　果
地歴クラブ 郷土クラブ	風俗、言語 人物、道路、鉄道	校内でのクラブ学習として行われている。

(ハ) 学校行事

名　　称	内　　容	成　　果

(二) その他の学校教育活動

名　称	内　容	成　果

(4) その他の学習活動

名　称	内　容	成　果
ハイキング	尾瀬の見学	尾瀬の文化財を知る。
文化財めぐり	多胡碑　吉井町郷土資料館見学	日本三大碑の一つを見、吉井町の郷土資料館を見学文化財の大切さを知る。

2. 各種団体による実践活動

団体の名称	活動内容	成　果
藤原自然を守る会	自然保護とパトロール	自然保護とパトロールに活躍されている。
武尊獅子舞保存会	後継者養成と保存	後継者養成と保存に活躍されている。
大峰神社神楽保存会	〃	

3. 文化財愛護団体等の育成事業

団体の名称	事業内容	補助金額等
		文化財愛護団体の組織づくりの話しあいがはじめられている。

4. 管内の住民一般に対する広報活動

名　称	内　容	成　果
水上町の文化財	地域別に代表的な文化財を写真版により紹介	文化財に対する理解者が多くなりつつある。

昭和５０年度

「文化財愛護モデル地区」活動

水　上　町

1. 文化財学習活動

(1) 文化財学習講座等の実施事業

名　称	内　容	成　果
文化財講座	文化財とは何か	婦人を対象とし実施、文化財に対する理解をいただく
〃	古建築の見方	民家、特に農家建築の文化財的立場からの価値を理解いただく。
〃	石造文化財について	石造文化財の意味について理解していただく。
文化財学習会	郷土の植物	県内でめずらしい植物と身近かにあるめずらしい植物をおぼえていただく。
〃	利根沼田におけるモリアオガエル生息状態	モリアオガエルがなぜ天然記念物として保存されるか理解していただく。
〃	正月の行事的作りもの	姿を消す昔の行事が今現在いかに大切であるかを知っていただく。
〃	郷土史	身近かにあった沼田城について理解していただく。
〃	郷土の民俗調査から	県内の民俗調査からめずらしいものをひろってお話しを聞きその重要性を認識する。
〃	郷土の民踊を復活させよう	忘れられかけた地元の民踊を復活し後世に継ぐため頑張ろう。
〃	昔をふりかえって	昔の遊びを思い出そう、そして記録に残そう。

(2) 指導者講習会等の実施事業

名　称	内　容	成　果
文化財指導者研修会	埋蔵文化財の取扱い	埋蔵文化財の知識を身につける。

(3) 学校における文化財学習（副読本、クラブ活動、部活動、学校行事）

(イ) 副読本

名　称	内　容	成　果
社会科副読本	町内の代表的文化財をとり入れている。	小学校3年生の社会科で使用効果をあげている。

(ロ) クラブ活動、部活動

名　称	内　容	成　果
地歴クラブ 郷土クラブ	風俗、言語 人物、道路、鉄道、産業	校内でのクラブ学習として行われている。

(ハ) 学校行事

名　　称	内　　容	成　　果

(ニ) その他の学校教育活動

名　　称	内　　容	成　　果

(4) その他の学習活動

名　　称	内　　容	成　　果
文化財めぐり 文化施設見学	町内の文化財を学ぶ 県立近代美術館と前橋市立教育資料館見学	町内の文化財をまわり再認識をしていただく。 長楽寺の宝物の展示と前橋市立桃井小学校所蔵の貴重な資料をみせていただく。

2. 各種団体による実践活動

団体の名称	活動内容	成　　果
藤原自然を守る会	自然保護とパトロール	自然保護とパトロールに活躍されている。
武尊獅子舞保存会	後継者養成と保存	後継者養成と保存に活躍されている。
大峰神社神楽保存会	〃	

3. 文化財愛護団体等の育成事業

団体の名称	事業内容	補助金額等
		文化財愛護団体の組織づくりの話し合いが進められているところである。

4. 管内の住民一般に対する広報活動

名　　称	内　　容	成　　果
水上町の文化財 文化財立札の設置	地域別に代表的な文化財を写真版により紹介 文化財啓もう用立札を設置	文化財に対する理解者が増加しつつある。

（別紙　2）

事　業　報　告　書

1. 事　業　名　　水上町文化財研修会
2. 事業内容　　2月9日（月）午後1時より水上町郷上資料館会議室で町民を対象に「文化財の重要性について」と最近特に問題になっている「埋蔵文化財の取扱い方について」研修する。
3. 事業成果　　文化財に対する理解がかなり強くなり、今後の文化財保護に大きく役立つことと思う。

事　業　報　告　書

1. 事　業　名　　「水上町の文化財」印刷物の配布
2. 事業内容　　水上町大字綱子地区の代表的文化財を写真に納め印刷物にし、毎戸1枚配布をする。
3. 事業成果　　町内に住む人達でも初めて見たというような声もあり、文化財というものに対する感心が高まりつつある。

事　業　報　告　書

1. 事　業　名　　文化財学習会
2. 事業内容　　◎高令者学級で学んだもの
   1. 古文書の読み方
   2. 利根の俗信について
   3. 民俗資料について
   4. 郡内における民具について
   5. 文化財めぐり

   ◎家庭教育学級で学んだもの
   1. 子どもと自然

   ◎婦人学級で学んだもの
   1. 尾瀬のハイキング
3. 事業成果　　文化財というものの理解と、特に資料提供の声が高まりつつある。

事　業　報　告　書

1. 事　業　名　　天然記念物　新種ユビソヤナギ研修会
2. 事業内容　　3月8日（月）午後1時より、水上町郷土資料館会議室で教育関係者を対象に湯檜曽地区で発見された新種ユビソヤナギについて研修する。
3. 事業成果　　天然記念物に対する理解と新種ユビソヤナギが当町で発見され他にない重要なものであることを認識する。

昭和５０，５１年度
「文化財愛護モデル地区」活動

榛　東　村

1. 文化財学習活動

(1) 文化財学習講座等の実施事業

事業名称	内容	成果
講演会	「桃井城と桃井氏」 講師　山崎　一　先生	出席できなかった者の強い要望で、講演内容を４回にわたり広報に掲載 住民が郷土芸能の価値を再認識し、後継者養成の気運が高まる。 講演会に婦人の参加者がだんだん多くなってきた。
	「榛名東ろくの民俗芸能」 講師　萩原　進　先生	
	「ふるさとの歴史と民俗」 講師　都丸七九一先生	
講習会	古文書解読講習会３回 講師　萩原　進　先生 丑木　幸男　〃 唐沢　定市　〃 小山　友孝　〃 佐藤　清　〃	最後は個別指導を行ない高度な解読ができる者も出た。
	拓本実技講習会 講師　近藤　義雄　先生	この講習の受講者が初心者指導をしようとする動きが活発になった。
映画会	榛名山――その成り立ち 榛名信仰 遺跡の発掘 上州路道祖神	この事業を通して、小中学生の意識を高めることができた。
県内文化財めぐり	５０年度「榛名山一周コース」 国分寺、薬師塚古墳、小栗上野介の墓、大戸関歩の関ほか 講師　阿久津宗二　先生 富沢　保　〃	募集人員を５０人（バス１台分）としたが、希望者が多く、１００名に増員して実施した。あいにく当日が雨天のため、コースの一部を変更しようとすると、参加者一同からぜひ計画通りという声がでる状態だった。

	51年度「東毛めぐりコース」 長楽寺、東照宮、大光院、 女体山、天神山古墳 さざえ堂ほか 講師　金子　規矩雄　先生	募集人員50人がたちまち満員となる。来年度の参加を申し込んでいく者もあるほどの感況。

(2) 指導者講習会等の実施事業

名　称	内　容	成　果
文化財保護行政担当者研修会	教育委員、事務局職員、文化財調査員を対象にした現地、現物研修会　5回	今後の文化財保護行政のあり方を再確認できた。

(3) 学校における文化財学習

(イ) 副読本

名　称	内　容	成　果
私たちの榛東村、榛東村の文化財地図	村教育委員会編集の「私たちの榛東村」並びに「榛東村文化財地図」を利用して郷土学習を実施する。	文化財地図はフィールドワーク用に作られているので好評である。

(ロ) クラブ活動、部活動

名　称	内　容	成　果
郷土クラブ	文化財地図を活用しての郷土の理解	小中学生が公民館を訪れ、郷土資料を活用したり職員に相談をかける者が多くなってきた。

(ハ) 学校行事

名　称	内　容	成　果
遠足	春の遠足は小中学校全学年がコースの中に必ず文化財の見学を計画する。	
文化祭	中学校の文化祭では、郷土クラブと写真クラブがふるさとの文化財の紹介で大活躍をする。	

(ニ) その他の学校教育活動

学校名	内容	成果
榛東中学校	職員有志による村内文化財踏査会	

(4) その他の学習活動

名称	内容	成果
寿大学	１０回の学習のうち文化財と歴史に関する学習２回	歴史と伝統の伝承者としての役割を認識してもらうことができた。
婦人学級	１０回の学習のうち文化財に関する学習１回	
芸能グループ教室	獅子舞後継者養成のためのグループ教室	２か年間で１５名の後継者を養成することができた。
少年グループ教室	１０回の学習のうち歴史や文化財に関する学習２回	

2. 各種団体による実践活動

団体の名称	活動内容	成果
文化協会	文化祭 民俗資料の展示 郷土芸能発表会 ５０年度太々神楽 ５１年度獅子舞	文化祭の人気は年々高まり、見学者数が５０年約１０００人、５１年は約１５００人を超えている。
歴史散歩の会	史跡めぐり ５０年度高崎市内 講師　田島桂男先生 ５１年度総社町 講師　近藤義雄先生	計画の立案、講師の依頼、当日の運営までいっさいを会独自ですすめていく。当日説明資料は会長が作成する。
	史談会	
青年親睦会・子ども会	道祖神まつりの復活 地区内の文化財整美活動 サイクリングを兼ねての文化財めぐり	地域の成人と子どもとの間の連帯意識が高まった。
３校ＰＴＡ協議会	講演会「榛東村の歴史と文化」 講師　近藤　義雄　先生	

3. 文化財愛護団体等の育成事業（補助金額1団体１５,０００円）

団体の名称	事業内容	成果
大宮神社獅子舞保存会	後継者養成、春秋の祭典に奉納	後継者１５人育成、文化祭で公演
常将神社神楽保存会	〃	後継者養成中
八幡宮神楽保存会	〃	〃
新井獅子舞保存会	〃	〃
聖宮神社神楽保存会	〃	後継者１０人育成、文化祭で公演
稲荷神社獅子舞保存会	〃	
下の前地蔵祭保存会	〃　夏8月7～15日　祭実施	高齢者より正しい和讃を練習中

4. 管内の住民一般に対する広報活動

団体の名称	事業内容	成果
有線放送	文化財パトロールレポート	
広報紙	文化財愛護啓発記事 ○文化財愛護モデル地区に指定される。 ○郷土の文化遺産を守ろう。 ○長岡で獅子舞後継者養成 ○盛況だった村民文化祭	文化財愛護に対する住民の関心の高まりが顕著であった。
	村内歴史散歩連載 ○高塚古墳 ○孝経の碑 ○地蔵まつり ○長岡の起源と長岡入景 ○桃井城 ○壁の入附近の地名 ○桃井氏と桃井城（４回連載）	
資料作成	榛東村文化財地図発行 3,０００枚発行 村内全世帯に配布	グループや家族連れで村内をまわる場合のテキストとしてよく利用されている。自由に記入できるので評判がよい。

文化財愛護モデル表区活動事例

事　業　報　告　書　(1)

1. 事　業　名　文化財学習会
2. 事業内容　（１）講　演　会

開催日　昭和５０年４月２０日（日）
会　場　榛東村中央公民館
演　題　桃井城と桃井氏
講　師　山　崎　一　先生

（２）古文書読解講習会

開催日　昭和５０年７月９日（水）
会　場　榛東村中央公民館
内　容　４９年度に引続き第２回目の講習会につき個別指導を行う。
講　師　丑木幸男　唐沢定市　小山友孝　佐藤　清　先生

（３）拓本実技講習会

開催日　昭和５１年３月１３日（土）
開　場　榛東村中央公民館
内　容　拓本用具の作り方、拓本のとり方
講　師　近藤義雄先生

3. 事業成果　何れの学習も好評のうちに終わり、延出席者数約１２０名となった。特に講演「桃井城と桃井氏」は、不参加者の要望により村の広報紙に４回にわたって講演内容を連載し、拓本講習会の終了者が近所の希望者を集めて伝達講習をするほどであった。

事　業　報　告　書　（２）

1. 事　業　名　郷土芸能後継者の養成
2. 事業内容　（１）長岡大宮神社獅子舞後継者養成

対象者　長岡地区の小学生１５名
練習回数　昭和５０年４月～５１年３月の間に２６回（１０４時間）
指導者　大宮神社獅子舞保存会役員４名

（２）新井八幡宮太々神楽後継者養成

対 象 者　八幡宮氏子内の青年男子

練習日数　昭和５０年４月～１１月の間に１２回（５２時間）

指 導 者　八幡宮太々神楽保存会役員５名

（３）　後継者養成費補助事業

対象団体数　　獅子舞保存会　　３団体

太々神楽保存会　　３団体

地蔵祭保存会　　１団体

補助金額　　１団体　１５,０００円

3. 事 業 成 果　大宮神社獅子舞、八幡宮太々神楽ともに短時日であったが、よく技術を修得し、太々神楽については、１１月の村民文化祭において、公演できるほどまでに上達した。

事　業　報　告　書　（３）

1. 事　業　名　村民文化祭

2. 事業内容　（１）　講 演 会

開 催 日　昭和５０年１１月２０日（木）

会　　場　榛東村中央公民館

演　　題　榛東村の歴史と民俗

講　　師　萩 原　　進　　先生

（２）　郷土芸能発表会

開 催 日　昭和５０年１１月２３日（日）

会　　場　榛東村中央公民館

内　　容　新井八幡宮太々神楽

大蛇退治の舞　両刀使いの舞　剣の舞

新井９区獅子舞

公演時間　太々神楽、獅子舞ともに５０分ずつ

3. 事 業 成 果　当日の参加者は、講演会は寿学級、婦人学級を含めて１８０名、芸能発表会は延べ４００名近い村民が集まっている。

事　業　報　告　書　（4）

1. 事　業　名　文化財めぐり
2. 事業内容　(1) 史跡めぐり

　開催日　昭和５０年１０月２５日（土）

　参加者　５０名　（バス１台）

　見学地　高崎市（若田原遺跡、中仙道一里塚）

　　豊岡茶屋本陣、浅間山古墳、群馬の森、岩鼻代官所跡、観音山古墳、慈眼寺ほか

　講　師　田　島　桂　男　先生

(2) 県内文化財めぐり

　開催日　昭和５０年１１月１４日（金）

　参加者　９７名　（バス２台）

　見学地　国分寺跡、薬師塚古墳、本郷古墳群、小栗上野介墓、忠治地蔵、大戸関所跡、杢ケ橋関所跡、金蔵寺ほか

　講　師　阿久津宗二、富沢　保　先生

3. 事業成果　県内文化財めぐりは、昭和４６年度よりの継続事業の最終年度で、募集人員を５０名としたが、身近かな榛名山一周コースを選んだためか、住民の強い要望で計画を変更し１００名募集した。この事業は年々拡大されるほどの成果をあげている。

事　業　報　告　書　（5）

1. 事　業　名　文化財愛護思想の啓発活動
2. 事業内容　(1) 広報紙による啓発

　回　数　９　回

　内　容　６月　文化財をたいせつに

　　７月　文化遺産を守ろう

　　９月　村内歴史散歩（堂の入）

　　１０月　村民文化祭に参加しましょう

　　１０月　獅子舞いを後継　長岡の小学生

　　１０月　村内歴史散歩（桃井城と桃井氏）①

　　１１月　〃　②

　　１２月　〃　③

1月　村内歴史散歩（桃井城と桃井氏）④

(2) 文化財査案結果の有線放送

(3) 各種学級内での文化財学習

寿 学 級　映画による文化財学習　2回

クラブ活動での文化財学習　6回

婦人学級　村の歴史と民俗

幼児学級　村の伝統行事と子どものあそび

少年グループ教室　郷土のまつり

広報しんとう６月号

文化財をたいせつに！ ――文化愛護モデル地区の指定をうける。――

どこにもある
平凡な石造物!!
…だがこれが
貴重な文化財です。

ことしから群馬県に「文化財愛護モデル地区」が設置されることになり、県内５か市町村が指定されました。この中に榛東村もはいり、昭和５０・５１年の２か年に亘って、文化財愛護の地域活動を推進していくことになりました。

このモデル地区は、

1. 村内に指定文化財がたくさんある。
2. 文化財愛護について村をあげて強い熱意をもち、地域活動を積極的にすすめている。
3. 文化財愛護の組織（郷土芸能保存会や愛好会）が結成されている。
4. 教育委員会が文化財愛護に対する事業を積極的にすすめている。

などの条件がととのっているところを教育事務所が推せんして選ばれたもので、榛東村ではつぎのような事業を計画しています。

1. 古文書読解講習会　　２回
2. 村内及び県内文化財めぐり
3. 講　習　会　　２回
4. 寿学級・婦人学級に村の歴史と文化財の学習をする。
5. 長岡獅子舞・八幡宮太々神楽で後継者養成をする。教育委員会で各４万円ずつ補助金を出す。
6. 文化祭で郷土芸能を発表する。
7. 太々神楽・獅子舞・地蔵祭保存会に補助金を出す。
8. 村内文化財地図を発行する。
9. 小中学校の教育活動の中で文化愛護の精神を養う。
10. 住民に文化財愛護に対して深い感心をもってもらうよう〃広報しんとう〃や有線放送で呼びかける。

県内７０か市町村の中から選ばれた文化財愛護モデル地区であることを十分ご理解いただいて祖先が残してくれた貴重な文化財を長く保存するため、みなさんのご協力をお願いいたします。

広報しんとう７月号

文化遺産を守ろう

急激な開発事業の進行により埋蔵文化財（地中にかくれている文化財）が破壊されるという事例が各地に起きています。

榛東村においても、工場用地や宅地造成あるいは道路工事・土地改良事業等が進められている中で、時折、遺跡にぶつかったという例がありました。教育委員会では、村内の文化財を巡視してその保護につとめておりますが、なにしろ二百近い文化財が村内に散在しているため、時には、知らぬ間に遺跡が破壊されていたということもあります。

道端の石造物（道祖神や庚申塔）畑地・山林内の古墳（わずか盛り上がった土地・大きな石が露出した場所・土器の破片ががちらばっている所なども古墳と考えてよい）は、私たちの祖先が多くの犠牲をはらってつくりあげた貴重な財産です。それは、何百年間も、ときには千年以上もの間、やはり私たちの祖先がだいじに守って今に伝えられたものです。何億の巨費を投じたという近代建築は仮にこわれても再建できますが、千数百年もの歴史をもつ古墳は、いったん破壊されれば、決して再現することは不可能です。

法律で罰せられるからとか、教育委員会や警察がうるさいから保護するのでなく、貴重な文化遺産だからこそこれを守り、後世に伝えるのが私たち国民の義務であることを認識して、村内の文化財保護にご協力願います。耕地などから、土器の破片、石で作った道具などの出土する所あるいは、○○山・○○塚などと呼ばれる古墳などを埋蔵文化財といいますが、このような場所に家を建てたり、土を掘ったりするような場合は、事前に教育委員会へ連絡して、その指示に従ってください。

広報しんとう９月号

村内歴史散歩　　堂の入付近の地名

榛東の地に住む吾々の遠い祖先や大昔に住んでいた先輩達も身近に迫る西山を仰ぎみるとき尊崇し敬慕していたことが偲ばれる。今でも小中学校の校歌には愛称されて幼い時分から親しまれているのである。

榛名の峰や谷には遠い昔に拓かれた神域や霊場が数多く散在している。榛名神社、伊香保神社、相馬山神社、水沢寺等々、それらの中でも最も規模が雄大で多くの人々が入山し離踏を極めたと伝えられる地が、柳沢寺の旧跡、堂の入地蔵である。

柳沢寺の創始は今より約１１６５年前とされ、嵯峨天皇の光仁年間に伝教大師が東国を巡教していた時、国府将軍兼群馬郡司の満行という人が大師の徳を慕って開基となり寺を建立したと言われている。

当時は数百の坊舎が建ち並びすべて比叡山に対比して造営した。盛時における寺の境域は、南は柏木沢辺から、東は利根川にまでおよび船尾三千坊と呼ばれた壮大なもので

あった。

嘉祥3年4月には朝延より延暦寺の別院となすとの詔を受けていたとも伝えられている。後、長和の頃千葉左衛門常将が一子相満若事件に怒って船尾山の衆徒と戦い、全山堂宇を焼きはらってしまった。その頃になると国司政治は著るしく衰退し、内乱があいつぎ社会不安の時代が暫く続いた為に寺の再建はされなかった。後々になって僧円俊が山子田に本堂を建て柳沢寺を再興し現在に至っている。

往時盛った堂の人の霊域はたずねる人の影も少なく、唯草木の生い繁るにまかせ、わずか林間の石垣と、語り継がれた地名とに　考を寄せてみるのみである。

1. 伊香保往還

現在の群馬水沢線県道、桃泉地区より大改修が始められている。

旧時の三国街道であり、平地に街道が移ってからは巡礼道とし亦伊香保、草津への入場客等旅人の往来がはげしかった道。

2. 百　庚　申

蔦石の近く伊香保往還添いに祀られている石塔群、殆んどが庚申塔であるが、中に道俱神、久那度神、猿田彦、愛宕大神等も見受けられる。これらは徳川中期以前に建てられたものである。近くに新林の地名もあるところから附近にはかなり大きな部落や耕地があったことが考えられる。

3. 蔦　　石

近くの峰林にある光石とともに古代に祭祀が行なわれた岩座であったと考えられる。此の附近を　査すれば必ず結論を得るだろう。寺が造られる以前の遺跡か。

4. みかえり坂

蔦石の部落はずれより大田沢に降り込む坂、現在も見返り峠と呼ばれている。此の峠に立った入山者、下山者共々已れの過去の追憶か、反省かしばし佇ずんだであろう誠にユニークな地名である。

5. 午王頭川

大田沢も下流に至ると午王頭川と呼称される。水沢から有馬を貫流するのも午王頭川である。

午王とは、護符の一種で午王宝印と呼ばれ平安末期から鎌倉期には盛んに用いられた起請文の用紙である。（誓詞、証書、契約書）

6. 観　音　坂

大田沢よりの急坂の路傍に石仏一体が現存する。柳沢寺の寄り本尊は千手観音である。旧時此の辺に観音堂があったのだろう。

7. 盗　人　越　（ヌスットゴエ）

山内眺望一番の傾きに登ると利根川が良く見える。坂本太郎を眺めたところから太

郎望との説あり、その南麓榛名ロッヂが建てられた辺りに旧時太郎坊と称された宿坊があって、そこから堂の入への至近のコースが太郎坊越えであり、ドロボー越えになり泥棒＝盗人となったとある。

8. 小　　猿　（コザル）

不入の滝が表鬼門、不来の山が裏鬼門に当てられる所、神仏習合により猿田彦大神が祀られていた。不来（コザル）である。

9. ニュージッタ

八十体、十王十体像が置かれている。

10. 博　奕　穴　（バクチアナ）

采博奕は仏教と同じく印度で発祥し、支那を経が日本に渡来した。博奕に使われている仏教関連用語は極めて多い。

11. 北　十　二

隣接地は笹塚、古墳であることが観察される。寺創始以前のもの。

（寄稿　岩田　実　氏）

広報しんとう１０月号

第　５　回

村民文化祭に参加しましょう

住民の芸術文化に対する理解と認識を高めることをねらいとして、１１月１２日より２３日の間、榛東村中央公民館において第５回村民文化祭が開かれます。

作品の出品、発表会の出演は、村内に住んでいる方や榛東村の出身及び村内の学校に勤務する先生ならどなたでも参加できますから、希望者は１０月３１日までに榛東村中央公民館へ申し込んでください。

また、文化祭期間中は、村内のみなさんが、たくさんお出かけくださるようお願いいたします。

第一部　県展巡回美術展

期間　　１１月１２日～２０日

内容　　絵画・彫刻・工芸・書および写真等の県展優秀作品約６０点を展示します。

第二部　作品展覧会

期間　　１１月１７日～２３日

作品搬入　　１１月１７日午前

作品徹去　　１１月２３日午後

ただし、生花と盆栽の搬入は２１日午後になります。

種目　　書道・手芸（和室）生花・盆栽・（講義室）・絵画・写真・俳句・その他

（会議室）

・すでに文化祭で発表された作品は出品できません。

第三部　講演会

期日　　１１月１９日午後１時半

演題　　榛東村の歴史と民俗

講師　　勢多郡富士見中学校長

群馬県文化財専門委員　都　丸　十九一　先生

第四部　芸能発表会

期日　　１１月１３日

午前９時～午後２時

種目　　郷土芸能（獅子舞・太々神楽）・詩吟・剣舞・舞踊・大正琴・その他

なお、第二部作品展覧会への出品は各種目ともひとり一点とし、第四部の芸能発表会の出演はひとり一回とします。また作品の搬入撤去は出品者が行ない、出演者の使用する用具は出演者自身で準備していただきます。

秋の

道路愛護運動

１０月２０日（月）

～

２５日（土）

○何気なく歩く道路に見直す感謝

○住みよさも明るい暮しも道路から

○いま通るあなたの道に真心を

このほか、村民文化祭について、詳しいことを知りたい方は、中央公民館へ問い合わせてください。

広報しんとう１０月号

獅子舞いを後継

――長岡の小学生――

教育委員会主催のグループ教室で長岡地区の小学生１４名が伝統的な郷土芸能である長岡獅子舞いを後継しようと、今年の４月より毎週日曜日に練習をしてきています。

師匠は岩田喜嗣さんほか大宮神社獅子の方々で、１０月９日の祭典に第１回の発表を行いました。

広報しんとう１０月号

村内歴史散歩

広報しんとう第７４号で「桃井城」を掲載したところ、村内のみなさんから、もう少し細かなことをぜひ知りたいという希望がありましたので、去る４月２０日、中央公民館と歴史散歩の会共催による講演会の県立高崎女子高校の山崎一氏のお話を４回にわたって連載いたします。

桃井城と桃井氏（一）

桃井城といわれるものは二つあって、ひとつは山子田御堀にある平城の「山子田城」であり、もうひとつは吉岡村南下にある丘城の「大薮城」である。

○　山子田城

山子田城跡は、東西２００ｍ南北１５０ｍで、東・中・西の三郭が並び、東郭中央は逆の食違い追手虎口らしく、南端をやぐら台と呼んでいる。西側には壕と土居が現存し、南側と北側にも土居とその外周に空壕跡がある。北側西寄りと西南の二か所に虎口跡がある。城趾の南外側の南城寺川の内側の土塁６ｍの上に土居があり、西南隅にも櫓台があったらしい。

嘉祿年間以降、南北朝期の桃井氏五代の居城であったが、その前期治承４年（1180）木曽義仲が父義賢の守護地、上野国多胡荘で挙兵の時、西上州の桃井氏外武将が平家追討に参加したとあり、文治元年（１１８５）源頼朝から藤原八郎桃井庄の地頭に補任されて桃井八郎と名乗ったらしく、建暦３年（１２１３）５月鎌倉幕府初代武者所別当和田義盛が鎌倉に叛き和田氏と共に滅んだ土屋大学権介義清が館と伝えられ、義清欠所の跡地２５の所の内桃井庄を内藤左衛門に給されたという。

大薮城は、吉岡村南下字大薮の八幡宮及びその北の不動山にあり、主郭は東西１３０ｍ、南北１２０ｍの広さで、中央部西北から東南方向が５０ｍほど馬の背状低峰の物見台になっている。この峰が主郭を両断してのび、第一郭は東北側より１０ｍ、第二郭は西南側より７ｍ高く、一郭は二郭より４ｍ高くなっている。

第一郭はほぼ　形で南側の長さ１３０ｍ、西側は８０ｍ、西側北半には１～３ｍの土居がのこっていて、低土居は全縁をめぐっていたと推定される。西北・南面には、下方に壕がめぐらされており、北側には腰曲輪もある。

第二郭は半円で、東南部を除く全面に高さ５ｍ以上の大規模な戦闘足場用の武者走りが高土居になっている。

南側中腹の上八幡宮と金剛寺辺も下曲輪で居館跡であろうか東側に高さ３ｍの土居があり、それに沿って堅壕が走る。北詞下方には堀切りを距てて３か所に小さい別郭があ

り、全体として政守両全の珍らしい形状で比較的保存がよい。桃井播摩守直常の城跡と伝えられるが、あるいは山子田城の非常時の龍城を改修したものか？何れにしても現形から見て直常期より後代のものらしい。

（本稿は山崎一氏の話を浅見善市氏がまとめたもの）

広報しんとう１１月号

村内歴史散歩

桃井城と桃井氏（二）

桃井氏と南北の争乱

桃井氏は足利氏の支族である。足利義兼の子義助は、桃井庄の地頭になったが、承久の乱の際宇治川で戦死し、嫡子義胤（当時２歳）は祖父義兼に養育され義助の旧領を受けて荘司として桃井に住み、氏族の居館とした。

義胤から４代の孫尚義の時、元弘３年（１２８０）５月８日同族の新田義貞は大塔宮の令旨を奉じ、討幕の旗を挙げた。尚義は一族の、駿河守義繁、兵庫助顕氏、遠江守有常と共にこれに応じ、小手指原、分倍河原で奮戦し、５月１７日極楽寺坂の戦で、大仏陸奥守貞直を討取ったほか、数度の歴戦の功に依り北面の士に列し左京亮に任ぜられ武者所の頭人に補せられたという。

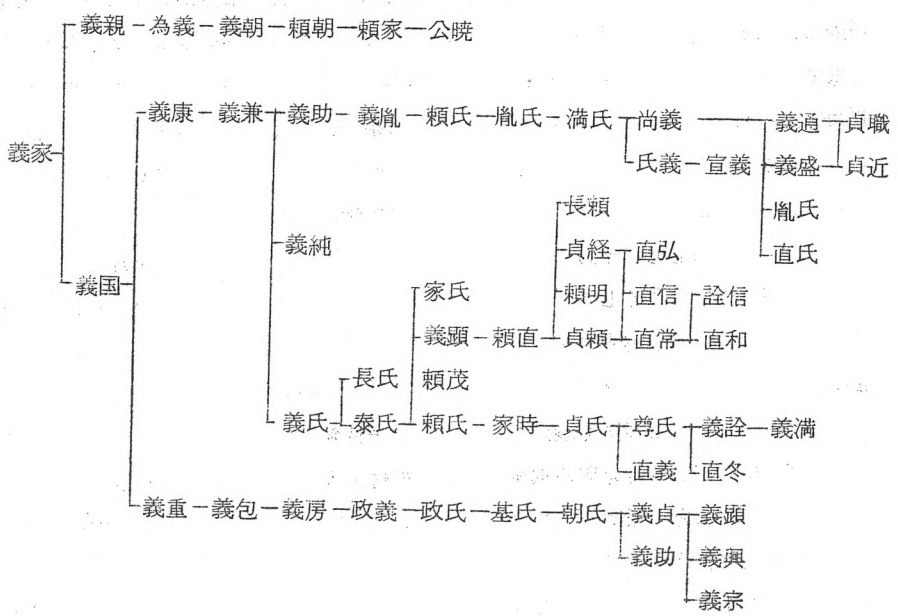
因に新井村根元帳（正徳元年）によると、その桃井八幡宮由来の項に、

「桃井八幡宮と申し奉るは、清和天皇後　、八幡太郎源義家四代の後裔にて、足利蔵人義兼の四男、桃井遠江守義　群馬の荘司に着任、嘉祿年中（１２２６）当国群馬郡長岡郷に居城を築き、当城の堅固と武運長久祈願の為、相州鎌倉若宮八幡を移し崇う。義　四代の孫桃井遠江守尚義、新田義貞に随身して延元３年戊寅年、越前国足羽の合戦に桃井一家討死、此時御家断絶　　以下略

福井に桃井の姓が多いのは、新田義貞と共に福井で滅びた桃井一族が多かったからだ。信州松本に逃れた人々の子孫は今も桃井姓を名乗っている。県内各地にも現存している。

尚義の子は刑部大輔義通である。足利尊氏の叛に依り京都を脱出した後醍醐天皇は延元元年（１３３６）１１月、新田義貞を北国に向かわせ、桃井義通は弟修理亮義盛、その子和泉守貞職と共に越後関川に移って南朝方の糾合につとめた。

（本稿は山崎一氏の話を浅見善市氏がまとめたもの）



広報しんとう１２月号

村内歴史散歩

桃井城と桃井氏（三）

桃井直常の活躍

桃井氏には、頼氏の子、頼直を祖とする別家があった。頼直の孫直常は尚義とは逆に尊氏方となった。その因縁は、尚義が上野国に居たため、新田義貞に随身したのに対し、直義は最初から尊氏勢に加わり、六波羅攻略軍中にあったからだろう。直常は元弘３年５月７日、六波羅の探題北条越後守仲時を攻め破り功によって右馬権頭となり、後に越中守から播摩守となった。延元３年（１３３８）正月２８日、直常は南朝方の総師北畠顕家を美濃の青野原に迎え討ち敗れたが、顕家方の損害も多く、それが２月２８日、南都般若坂で、直常・直信に撃破される原因となった。正平５年（観応元年１３５０）１２月、足利直義が兄尊氏に叛いて南朝方に帰順した時、直義の催促に応じた直常は、翌正月８日越中を発って、加賀・越前の兵を集め、７０騎を率い雪を冒して江州坂本に着いた。２月１７日、尊氏勢を摂津国打出浜に破るのである。直常の名の直は直義の直に通じるように、直常は終始直義と行動を共にした。

その後直義は、尊氏、義詮父子との戦いに利あらず、鎌倉に遁れて拠り、これを討つため尊氏は１２月駿河に出陣し、関東の諸将に直義追討の出兵を促した。宇都宮氏綱・薬師寺元司等の下野勢や、上野国の大胡・山上・大島の人々がこれに応じ、上州勢は大島義政を将として笠懸野へ打って出て、１２月１６日、長尾孫６・平３等に駈け散らさ

れてしまった。しかし１９日になると、宇都宮氏網の優勢な部隊が芳賀貞経を将として到着し、利根川を渡り那波荘で反撃に出た。直義方の将は桃井直常の勢７千余騎と長尾景忠である。桃井が鬨の声で宇都宮に討ちかかる。長尾左衛門勢３千余騎、魚鱗に連り薬師寺に打ちせまる。長尾孫６・平３が勢５百余騎、みな馬から飛びおり、徒立ちになって射向の袖を差しかざし、太刀、長刀の鋒をそろえて、閑々と小跳りして靡けて追いっ返しつ半時ばかり戦って、長尾孫六が勢縦横に駈け悩まされて一人残らず討たれ、桃井勢も叶わじと当惑し、十万に分かれ落ち退く。いくさ終って４・５か月後までも戦場の３・４里四方は草醒くして血野原にそそぎ、屍は径にうず高く横たわると、太平記にはある。この戦いが事実上の決戦となり、翌観応２年（１３５１）２月。直義は尊氏に毒殺されてしまうが、直常はさらに尊氏に敵対して南朝方にのこり、正平７年（１３５３）７月１８日、新田義宗（義貞三男）と共に宗良親王を奉じて上野、武蔵を攻略している。京の桃井塚は直常兄弟の戦趾である。後村上天皇が男山に還幸し敵に包囲され、５月１１日陥ることの報せをうけた直常は、兵を率いて赴援したが、幸に天皇は無事に脱出したと聞き、兵をおさめた。

正平９年（１３６６）１２月２４日、直常は足利直冬（尊氏の第二子）と共に尊氏と京都に攻め、尊氏は後光厳院を奉じて近江の武佐寺にのがれた。同１０年１月１６日、直常は堂々入京したが、３月１７日、七条の戦に南朝方は尊氏に敗れ、京都を放棄しなければならなかった。その後も、直常は新田義宗等と力を合わせ苦闘をつづけたが、正平２１年９月、足利義将に敗れて越中で討死したという。

新井の播摩という所は、直常の隠棲したところとも言われ、吉岡村南下字田中にその墓と称する五輪塔がある。勢多郡宮城村苗が島に直常の城と伝えられる城跡もある。伝説では吉岡村大藪の上八幡宮と田中の下八幡宮は直常の建立で、下八幡わきの桃井の池は直常の産湯の池といわれている。

（本稿は山崎一氏の話を浅見善市氏がまとめたもの）

広報しんとう１月号

村内歴史散歩

―― 桃井氏諸々で散る ――

正平１４年８月、九州筑後川で激戦が展開された。頼山陽の詠詩が如実に表現しているが、八千の菊地軍は、少弐・大友軍六万を紛砕したが、南朝方も戦千八百、桃井左京亮の名がその劈頭にある。しかし、桃井左京亮尚義が鎌倉攻め以後８０年後のことであるから尚義でなく、それより三代程後の裔孫であろう。尚義系の桃井氏には左京亮が引きつがれたと推定が難くない。

「坪弓老談記」に応永４年、宗良親王の御子、兵部卿尹良親王を寺尾城に迎えた。守

護の大将世良田大炊助政義、桃井左京允宗好と記されているが、この城は、高崎市の寺尾で、応永4年（１３９７）から１９年４月まで宗好は尹良親王をここで守護した。宗好も尚義系の人であろう。

下って、永亨１２年（１４４０）足利持氏の子安王丸、春王丸が兵を挙げて、結城城に立籠って軍に抗した時、結城氏朝等と籠城した諸将の中に桃井左京亮以下一族の人々が多数加わっている。これらの人々は尹良親王に従って寺尾城から下野国落合に移った桃井一統の子孫であろう。

直常の孫、幸若は叡山の児となり、幸若流の舞の創始者であり、その子孫は、越前に住み業を伝えると共に、太閤記、家康伝等に見る名技で舞踊各流の元祖であった。

附　記

1. 元中年間、東国の諸将は、桃井貞職を尹良親王に遣わし、上野国に迎えた途中、元庄５年春、鎌倉勢五千騎が襲い貞職勢２５０騎は援軍を得て激戦しつつ寺尾城に入る。尹良親王に奉仕した諸将の中に桃井満昌入道・桃井義繁・桃井貞綱等烈士の名が挙げられている。
2. 山子田湯浅家系図に貞職母方の姓「湯浅」を継ぐとある。
3. 桃井小学校の講堂のある位置に忠魂碑を建てる時、土中より数多くの五輪塔の破片が出土した。その辺一帯に桃井領主や家臣たちの墓があったのかもしれない。

（本稿は山崎一氏の話を浅見善市氏がまとめたもの）

あ　と　が　き

浅　見　善　市

桃井氏が南北朝期に為せる百有余年間の義節の跡を６４５年後の今日、回顧しますに感概無量を禁じえないものがあります。

元弘３年５月８日、新田義貞公の挙兵に即応して、我等の郷土の群馬の荘司、桃井遠江守尚義公もまた随身しましたが、如何に天業へのご奉仕とはいえ討幕戦のこと、僅少な桃井一氏一族だけで応募出征することができたでしょうか。

想うに、遠き異国への外征に増して、予想される長期の苦闘戦に対拠する領内兵団の勤王必勝の信念とその戦力にも加えて是を援ける在郷の領民が挙げての忠誠一如の為せる大壮挙であったと推考せざるを得ません。

是れ出征跡の桃井城の留守兵団の対戦態勢や外征補充将士の選出は素より、銃後領民が兵糧・武具等の生産　重等と前線銃後のの決戦態勢を想うだに、去りにし６４０余年前の領民の献身的団結と勇猛な敢闘心や人的経済的負担の程を痛感するのです。

特に建武中興以来、足利勢の優位に伴ない、新田領は足利方に没収され、その制庄下で敗者たる悲嘆と忍従の裡に、前線・銃後が尽した5年2ケ月間の負荷の大業も空しく、延元3年7月2日、異郷遠き越前（福井県）足羽の灯明寺畔で新田公と共に桃井左京亮尚義公以下桃井兵団も殉死とのこと、それ以後残る幾多の桃井族や関係将士更にその子孫末裔までが、嘉吉年間の結城合戦で完敗までの百余年間暇無い悪戦苦闘以て天業に貢献した挙村全領民の偉大な功績を想う時、醜の御□と終りにし遠き緑深い名もなき将士や領民と荒廃たる古城址に崇高な敬慕と哀惜の情の　切なるものを感ずるものであります。

◎　嘉祿かた荘司義胤・尚義と
　　昔を今に　顕す　我が里

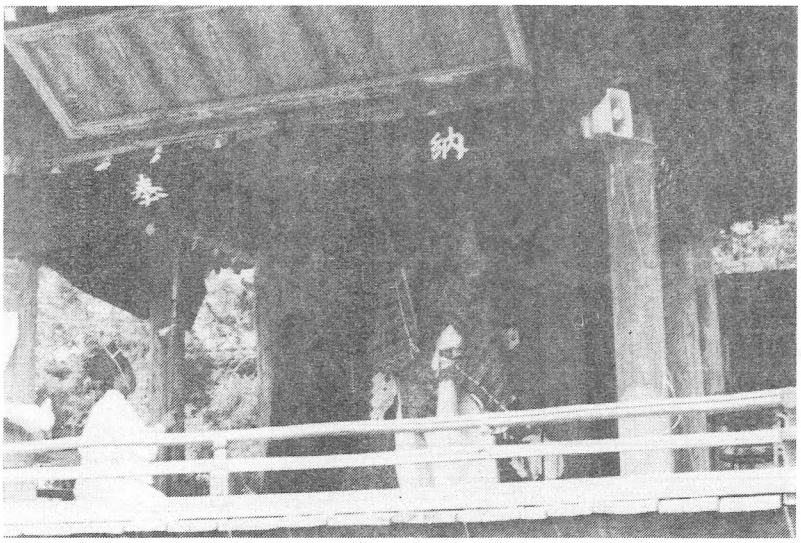
◎　増荒男の貴き縁をあらはにぞ
　　仰ぐ祖裔の此地を永久に

追白　以上は山崎先生の御講話を筆者の不見識のなせる要略でしたので幾多の□義や貴重な武勲や古文書、口伝等が探究しても尽きないことを痛感しますが今回は割愛させて頂きます。幸いに御郷友諸賢の文化財発掘と顕彰の愛郷心で何卒御批正と御発表を賜れますよう御懇願申し上げます。

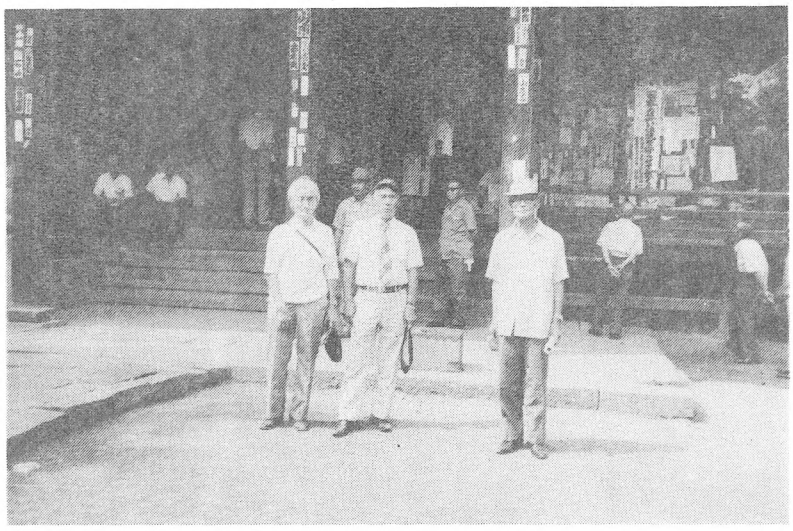
眺赤榛攸桃井郷	赤城山・榛名山を一望する処は桃井将士の里で
帝猷将士潜勲功	天業奉仕兵団の武勲と功績が輝きひそむところである
随身禁衛殉藤島	錦旗を護衛して藤島合戦で惜しくも殉死したが
空忍栄枯邑子傷	領民は今の埋れた祖業の武勲と敗戦を想いながら悼んでいる

（仄起七陽詩）

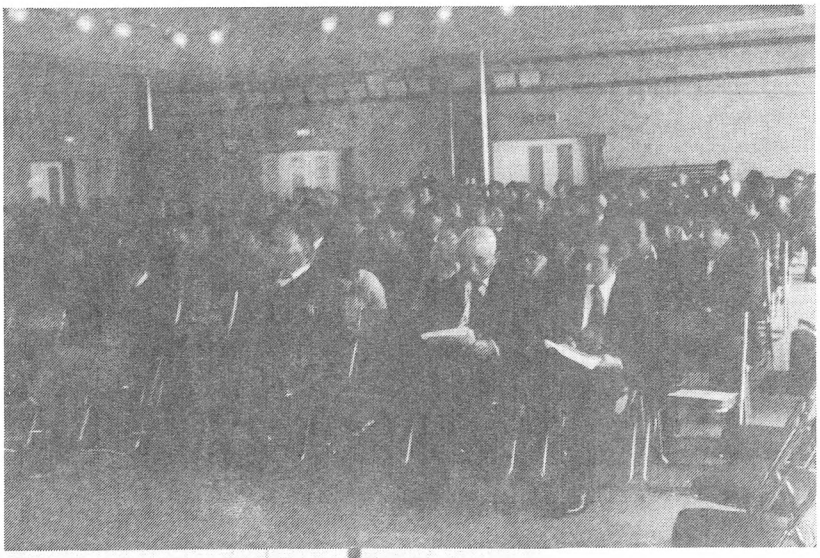
保渡田諏訪神社獅子舞



金古諏訪神社神楽



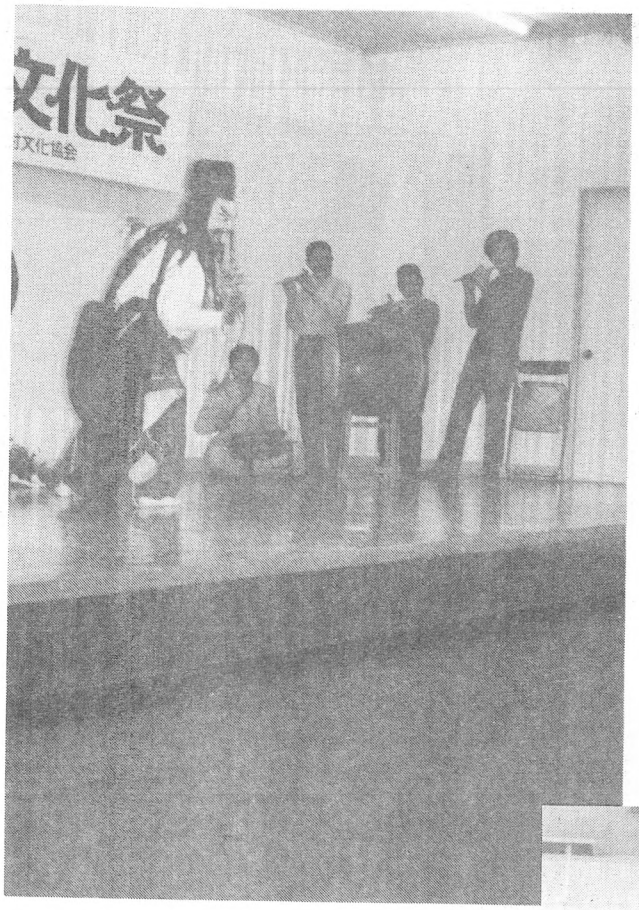
高令者教室
文化財講座
史跡めぐり
榛名白岩観音にて



町民教養講座
「町の文化財」
の講演会のようす

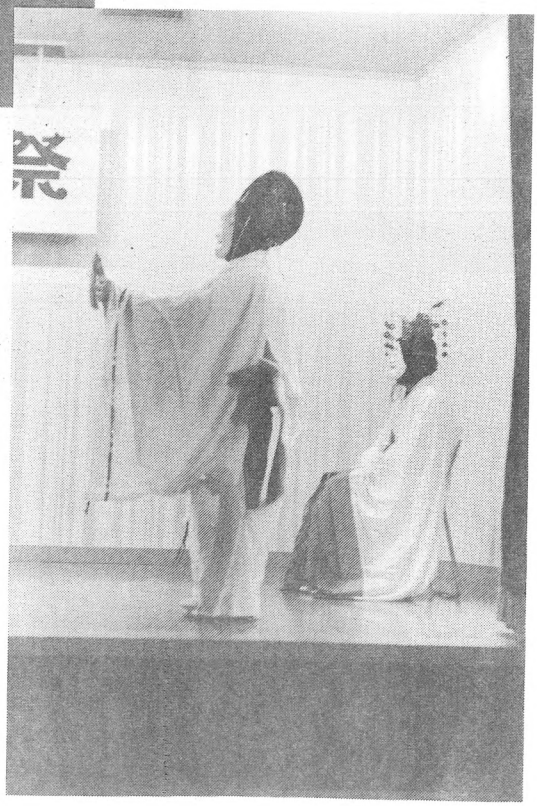
中里火渡り

町内史跡めぐり
上野国分寺跡にて

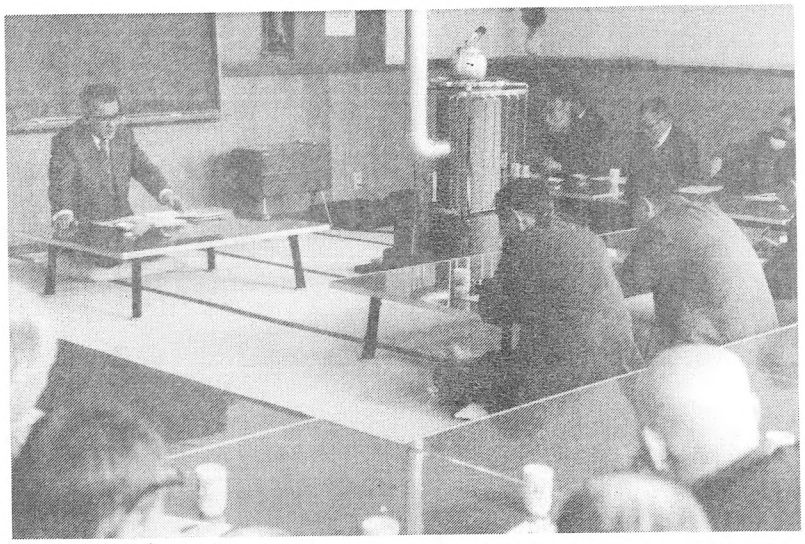


新げいこ（養成された後継者）の
太々神楽公演

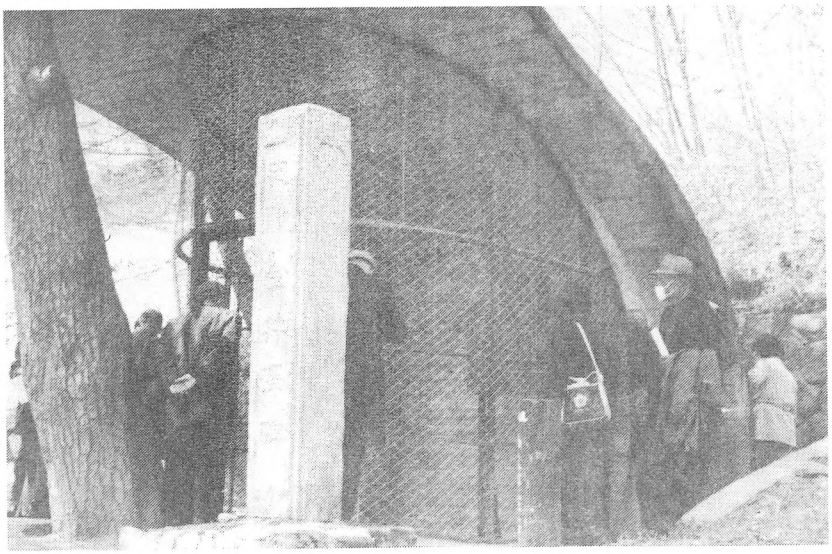
文化祭における太々神楽の公演



文化祭における
獅子舞公演



水上町文化財研修会
（2月9日）



水上町高令者学級
文化財めぐり
（3月31日）

和衆協同
力田有秋
第一回文化財講座
吾妻町の文化財(史跡)